

平成 27 年度研究科アンケートの結果について

集計結果

1. 成果について

(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。

	とてもなった	まあまあなった	あまりならなかった	ほとんどならなかった
平成 27 年度	75 (67.0%)	32 (28.6%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	63 (59.4%)	37 (34.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
平成 25 年度	51 (44.7%)	58 (50.9%)	5 (4.4%)	0 (0.0%)

(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

	とても	少し	変わらない	あまり	ほとんど
平成 27 年度	49(43.8%)	41(36.6%)	14(12.5%)	6(5.7%)	0(0.0%)
平成 26 年度	47(44.3%)	29(27.4%)	18(17.0%)	3(2.7%)	0(0.0%)
平成 25 年度	43(37.7%)	34(29.8%)	27(23.7%)	6(5.3%)	4(3.5%)

(20) 知り合い（後輩や職場の同僚等）から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

	すごく薦める	やや薦める	どちらとも	あまり薦めない	全く薦めない
平成 27 年度	38(33.9%)	57(50.9%)	13(11.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	29(27.4%)	41(38.7%)	25(23.6%)	2(1.9%)	4(3.8%)
平成 25 年度	15(13.2%)	36(31.6%)	43(37.7%)	8(7.0%)	5(4.4%)

※「自分のためになった」という問いに、「とてもなった」と回答した院生がかなり増加した。「知り合いに薦めますか」という問いに対しても、「すごく」「やや」薦めるが増大し、「薦めない」という回答がなくなった。これらの回答結果は、全体としての満足感が高まった証拠だと捉えられ、カリキュラム改革の成果が表われていると言える。

2. カリキュラムについて

(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

	期待以上	まあまあ期待通り	少し期待はずれ	全く期待はずれ
平成 27 年度	50(44.6%)	58(51.8%)	4 (3.6%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	28(26.4%)	65(61.3%)	13 (12.3%)	0 (0.0%)
平成 25 年度	12(10.5%)	72(63.2%)	26 (22.8%)	3 (2.6%)

(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	22(19.6%)	75(67.0%)	12(10.7%)	2(1.8%)
平成 26 年度	18(17.0%)	55(51.9%)	31(29.2%)	2(1.9%)
平成 25 年度	5(4.4%)	57(50.0%)	44(38.6%)	7(6.1%)

(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 27 年度	25(22.3%)	80(71.4%)	7 (6.3%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	30(28.3%)	64(60.4%)	11 (10.4%)	1 (0.9%)
平成 25 年度	10(8.8%)	70(61.4%)	32 (28.1%)	1 (0.9%)

(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 27 年度	48(42.9%)	62(55.4%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	34(32.1%)	66(62.3%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)
平成 25 年度	26(22.8%)	75(65.8%)	12 (10.5%)	0 (0.0%)

(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

	多かった	ちょうどよかった	少なかった
平成 27 年度	3(2.7%)	91(81.3%)	18(16.1%)
平成 26 年度	23(21.7%)	62(58.5%)	17(16.0%)

(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
平成 27 年度	30(26.8%)	73(65.2%)	9 (8.0%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	32(30.2%)	54(50.9%)	15 (14.2%)	1 (0.9%)

(9-1) (前期) 共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期) 共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 27 年度	13(27.1%)	33(68.8%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	17(34.0%)	27(54.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)

(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 27 年度	23(48.9%)	18(38.3%)	6 (12.8%)	0 (0.0%)

※カリキュラムに関わる問いについて、肯定的回答がかなり増加した。院生の評価が高まったと捉えてよいと思われる。特に授業内容について、「期待以上だった」という回答がかなり増加し、「期待はずれだった」という回答がほとんどなくなった点に顕著に表われている。教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけられたかという問いに、「とても思う」という回答が約半数であり、初年度としてはよい結果であったと評価できる。

3. 院生への支援体制について

(8) 履修指導は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	42(37.5%)	61(54.5%)	6 (5.4%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	36(34.0%)	52(49.1%)	13 (12.3%)	1 (0.9%)
平成 25 年度	26(22.8%)	60(52.6%)	21 (18.4%)	5 (4.4%)

(9) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	30(31.6%)	48(50.5%)	15(15.8%)	1(1.1%)
平成 26 年度	21(19.8%)	51(48.1%)	16(15.1%)	2(1.9%)
平成 25 年度	18(15.8%)	59(51.8%)	23(20.2%)	1(0.9%)

(10) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	43(45.3%)	44(46.3%)	6(6.3%)	1(1.1%)
平成 26 年度	37(34.9%)	45(42.5%)	9(8.5%)	0(0.0%)
平成 25 年度	29(25.4%)	49(43.0%)	21(18.4%)	4(3.5%)

(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 27 年度	67(59.8%)	39(34.8%)	5 (4.5%)	0 (0.0%)
平成 26 年度	59(55.7%)	39(36.8%)	3 (2.8%)	1 (0.9%)

※院生への指導体制については、例年通りの傾向で、目立った変化はない。不満を感じている院生がいることから、その理由を探り、改善を図って行くことが必要である。

4. 施設設備

(12)-1 教室の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	18(16.1%)	67(59.8%)	21(18.8%)	3(2.7%)
平成 26 年度	18(17.0%)	59(55.7%)	22(20.8%)	3(2.8%)
平成 25 年度	7(6.1%)	61(53.5%)	40(35.1%)	6(5.3%)

(12)-2 院生室の設備は適切でしたか。

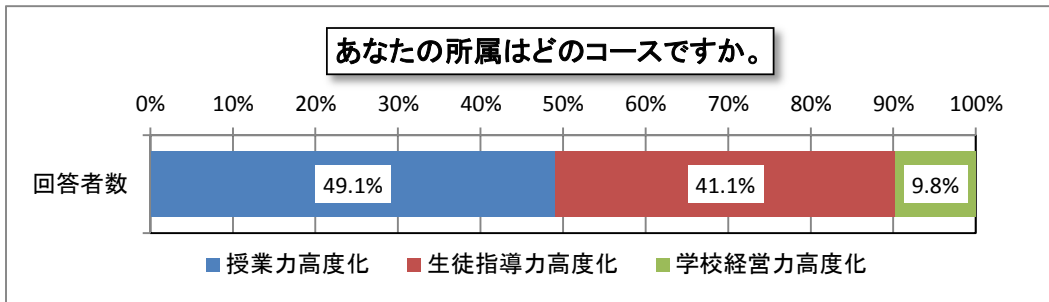
	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	16(14.0%)	48(42.1%)	42(36.8%)	7(6.1%)

(12)-3 大学の設備は適切でしたか。

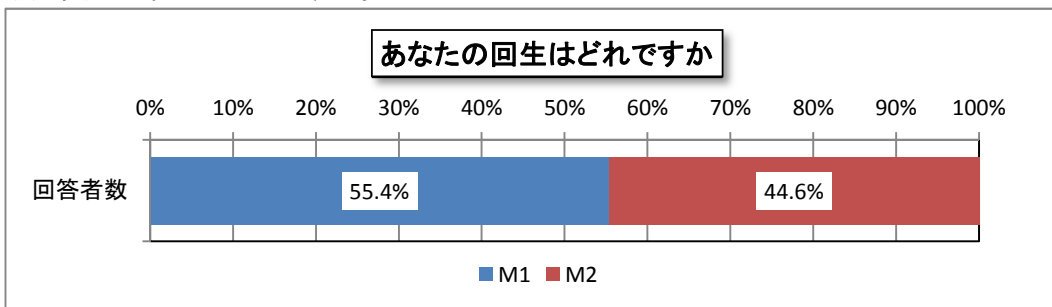
	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	7(6.1%)	54(47.4%)	45(39.5%)	8(7.0%)

※例年と同様の結果である。院生の不満はかなり高いと受け止めなければならない。改善に向けた努力を可能な範囲で続けていくしかない。

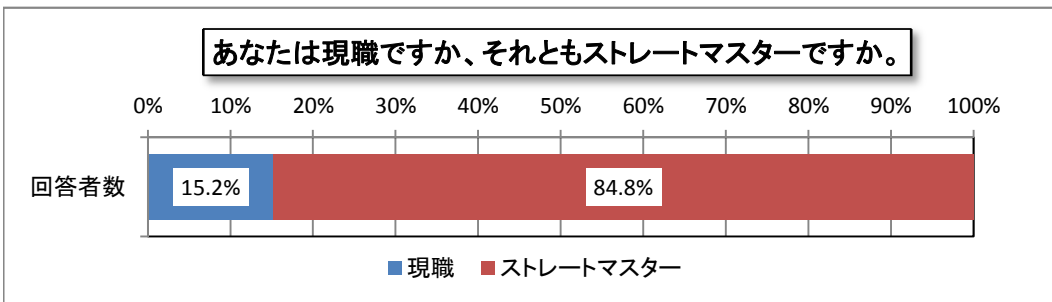
(1) あなたの所属はどのコースですか。



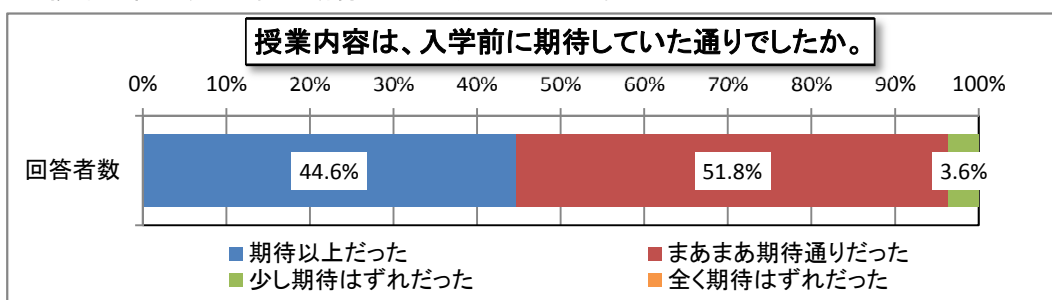
(2) あなたの回生はどれですか。



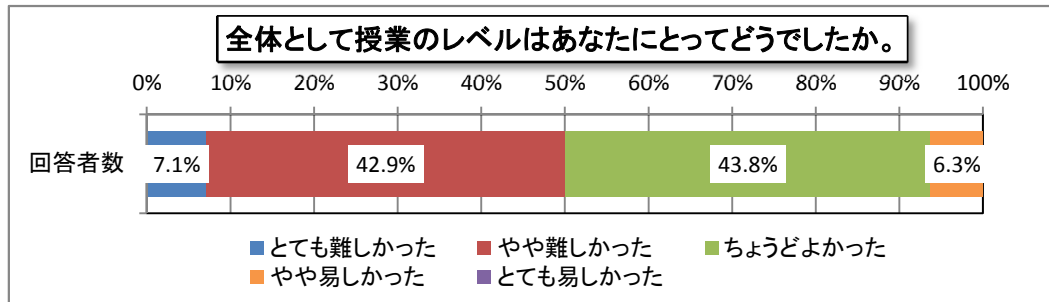
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



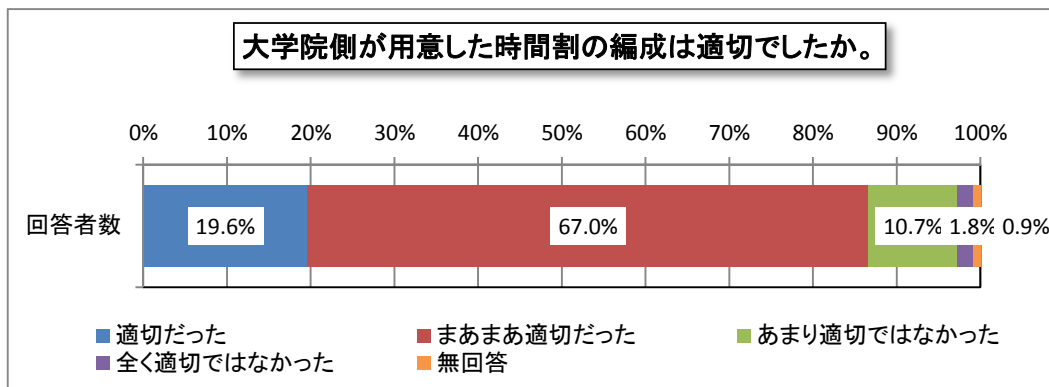
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



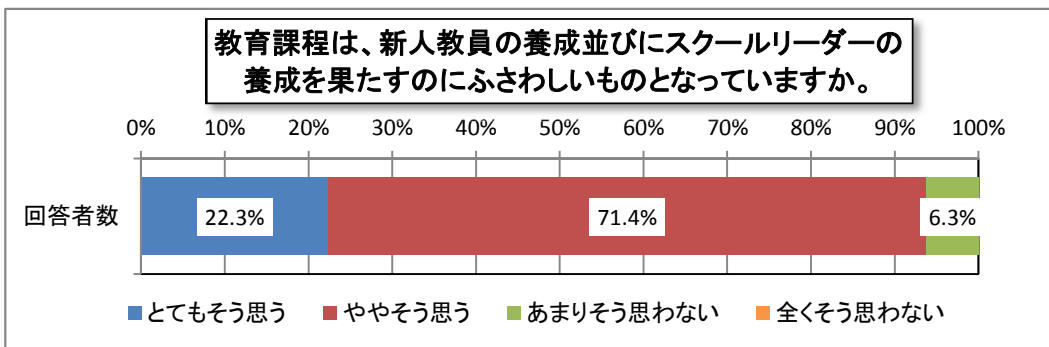
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



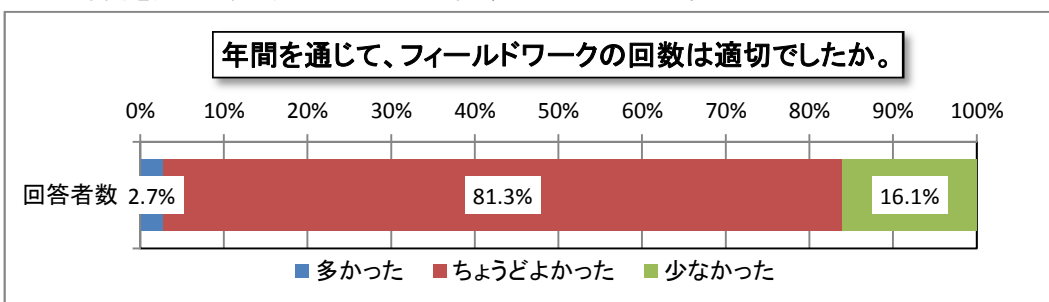
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

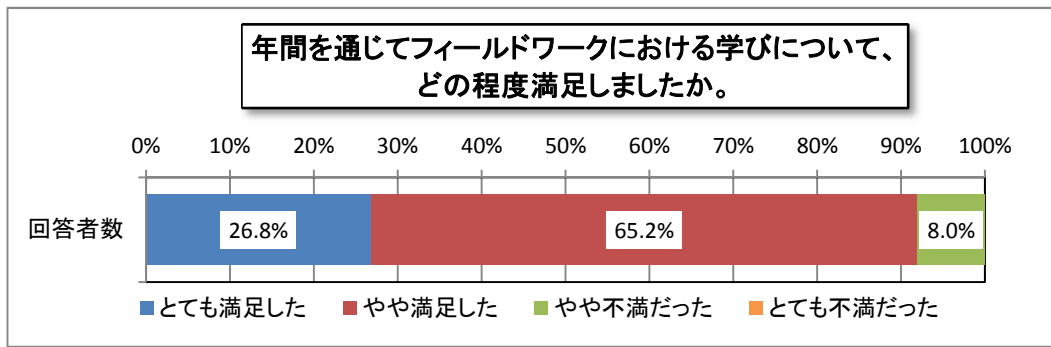


(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

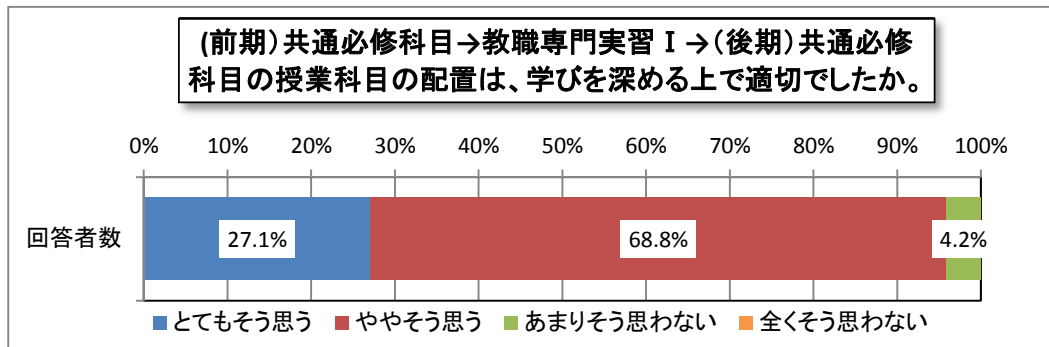


(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

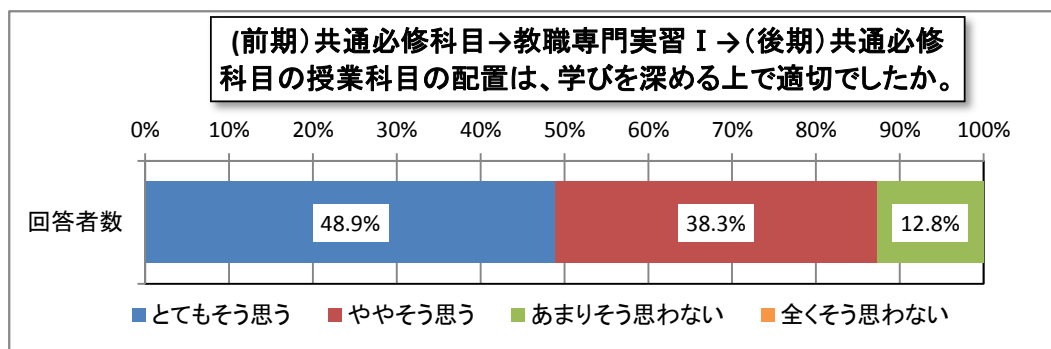




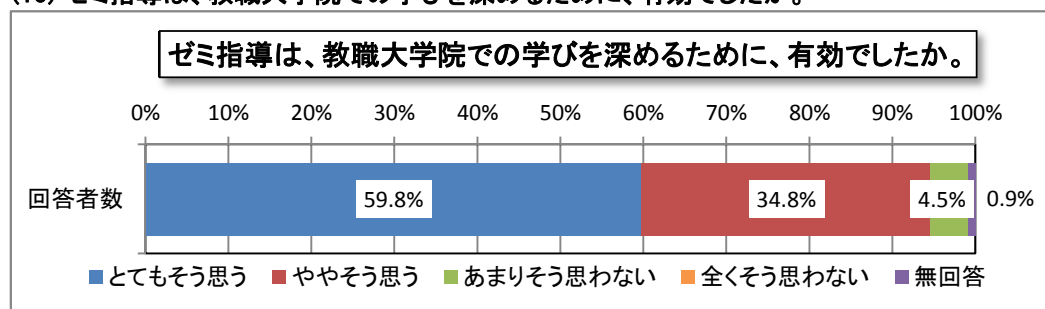
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



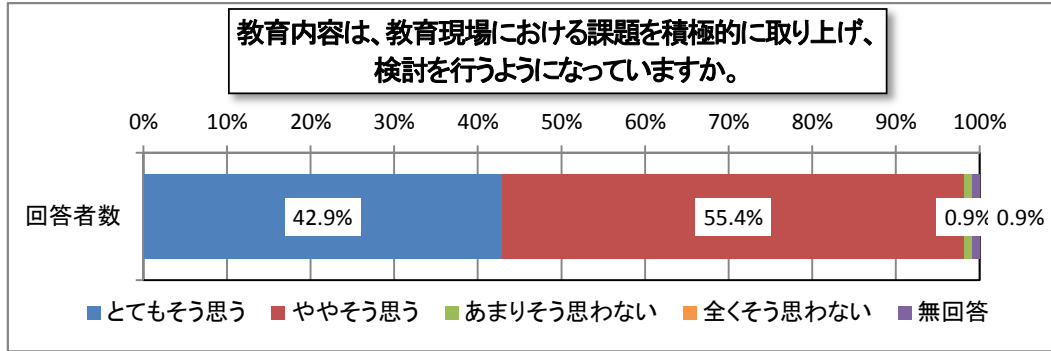
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



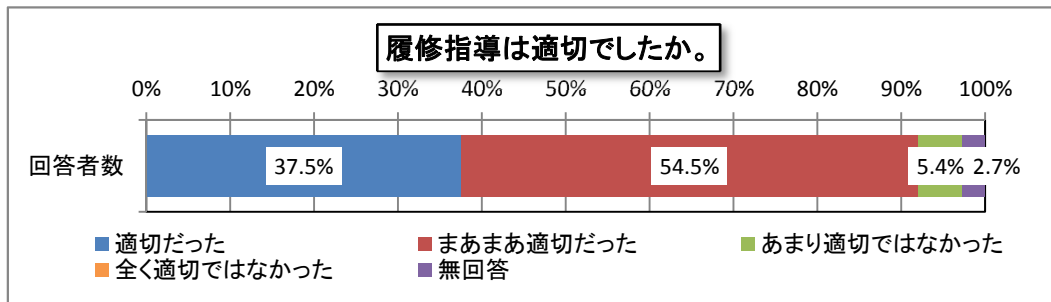
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



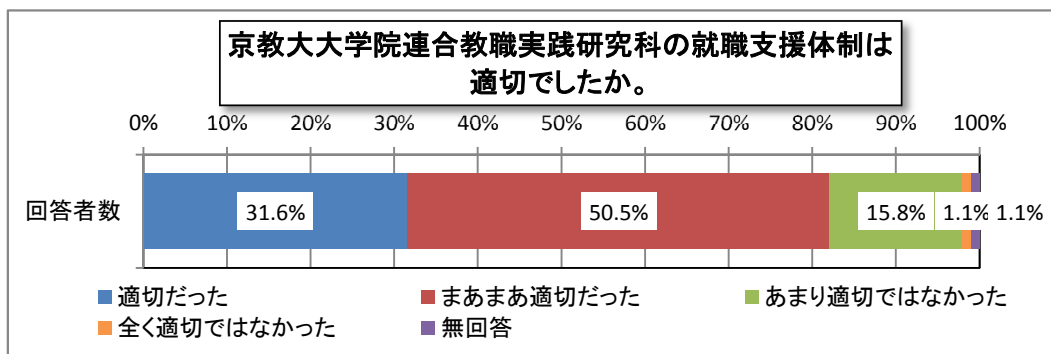
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



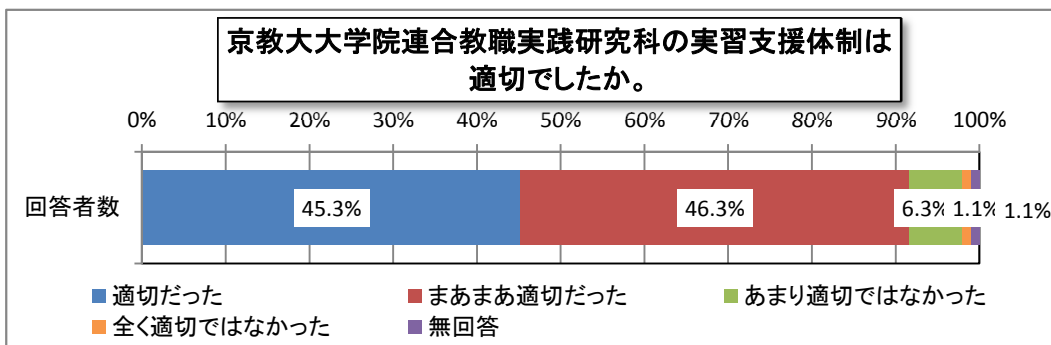
(12) 履修指導は適切でしたか。



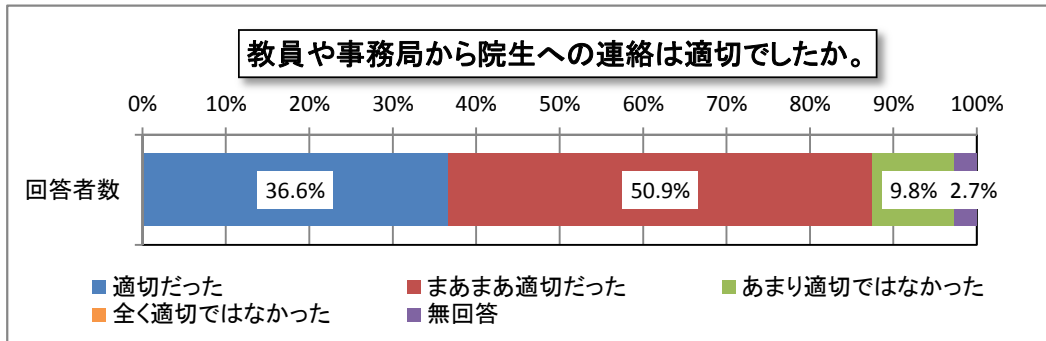
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



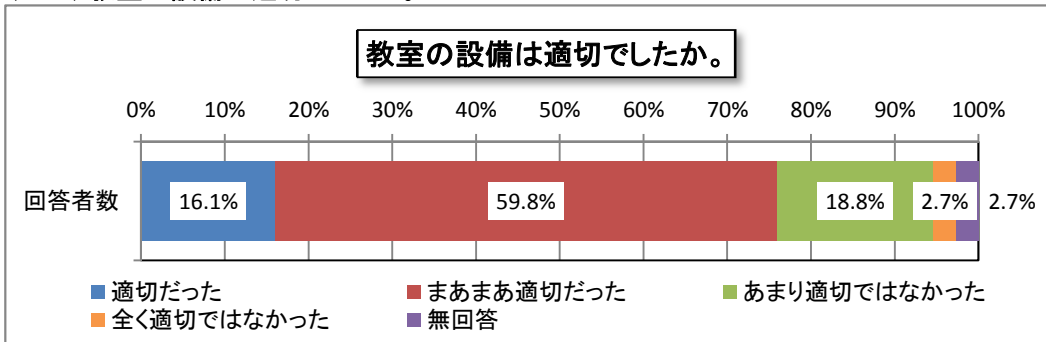
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



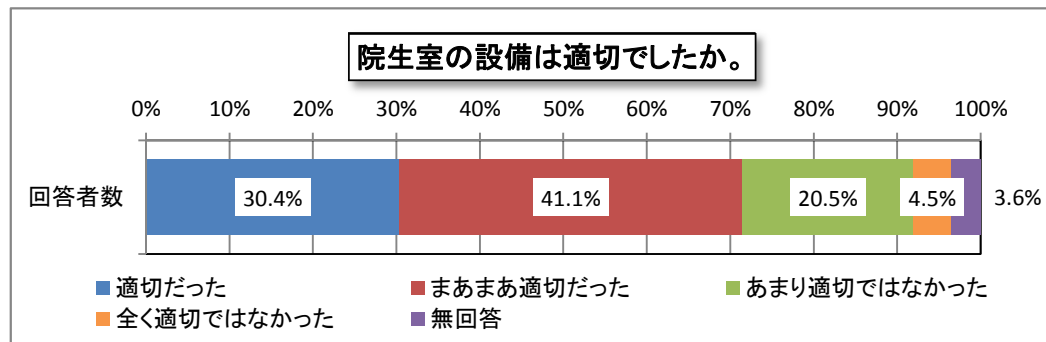
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



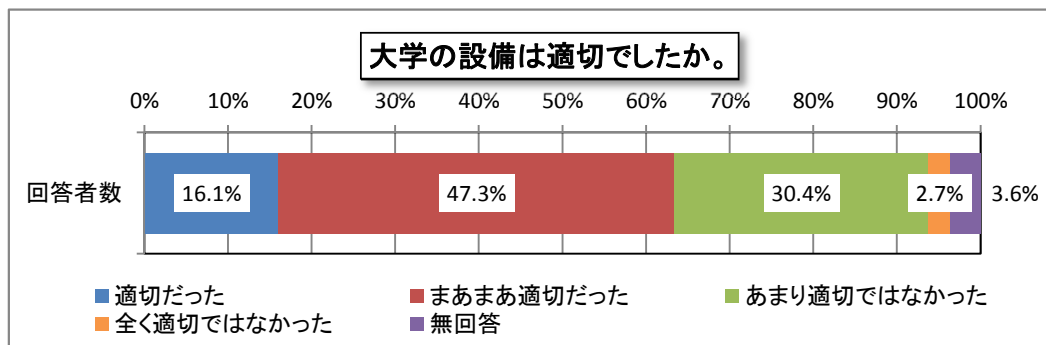
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



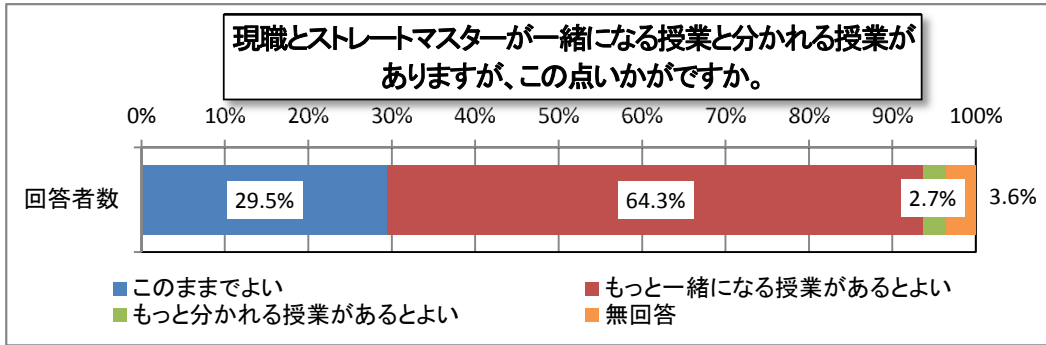
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



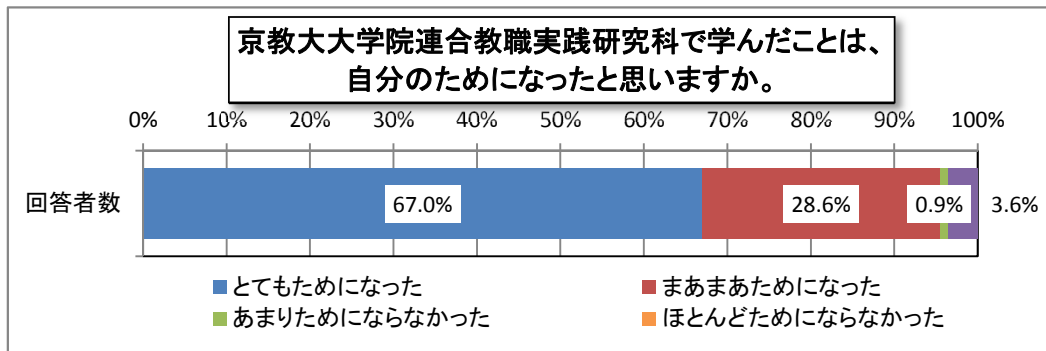
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



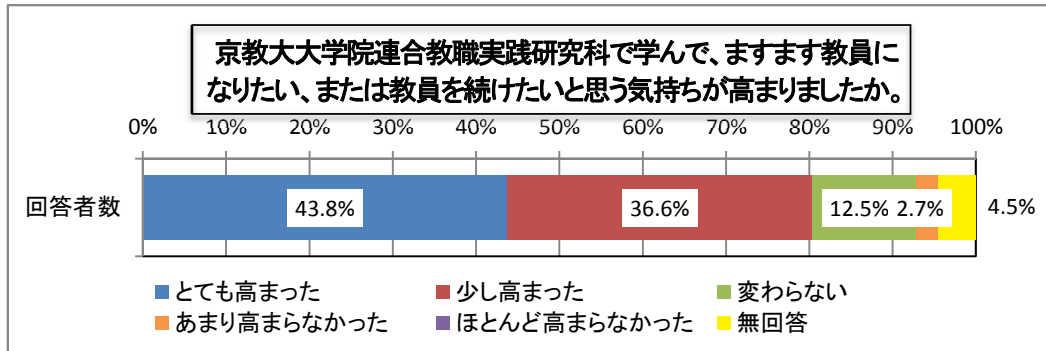
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



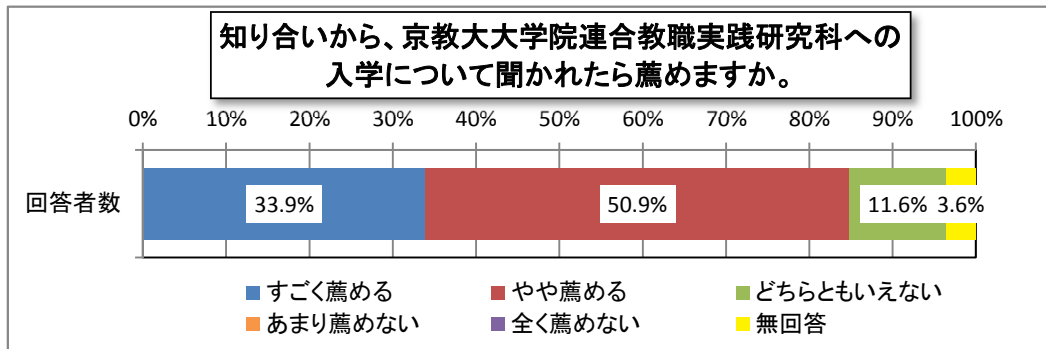
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



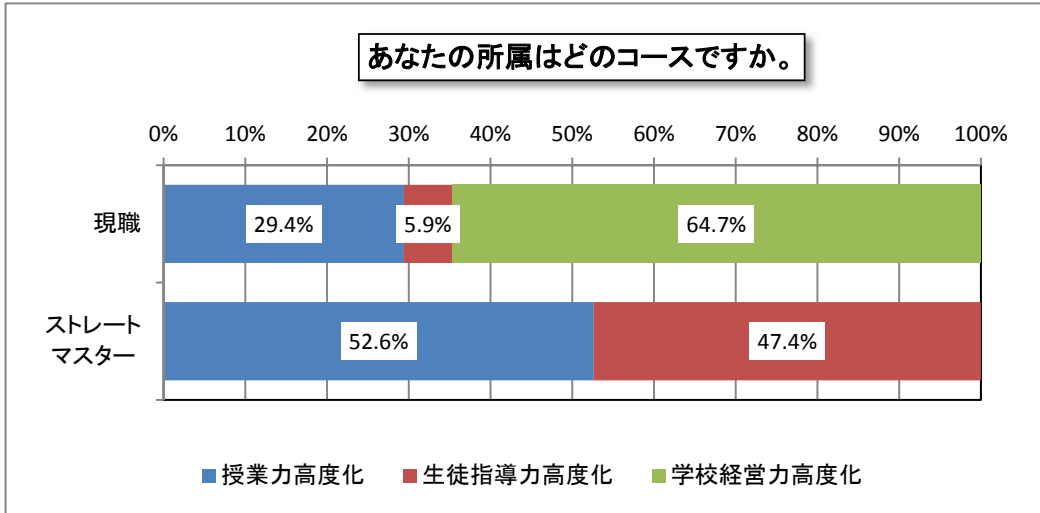
(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



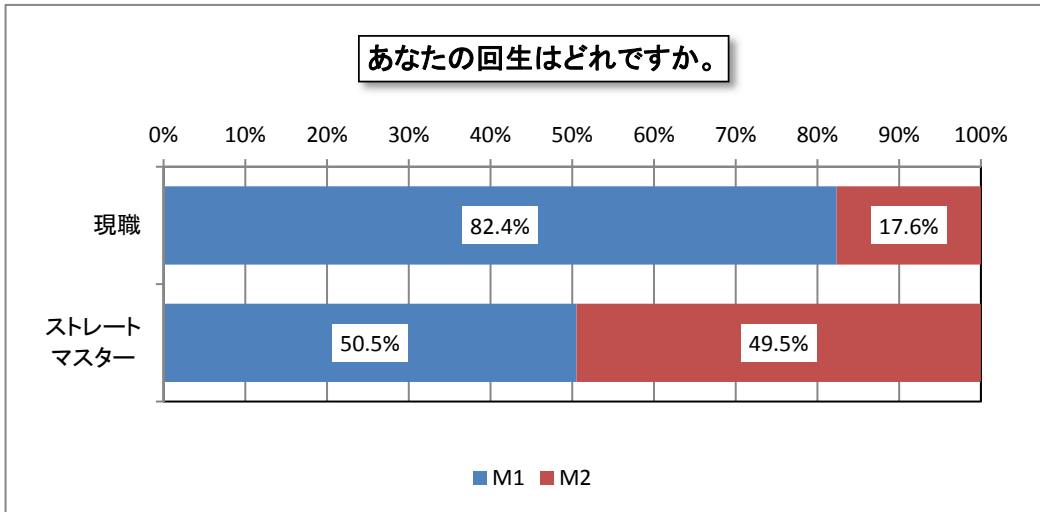
(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。



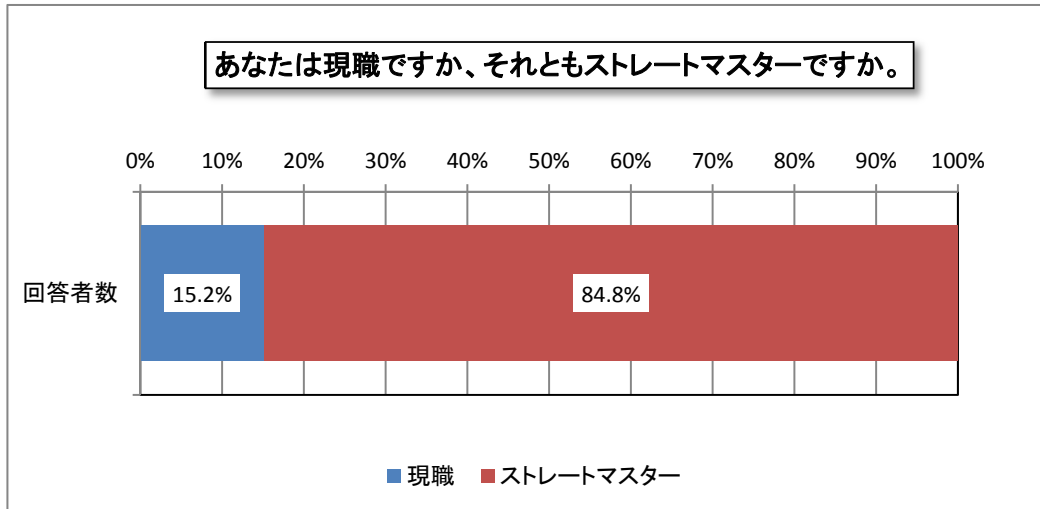
(1) あなたの所属はどのコースですか。



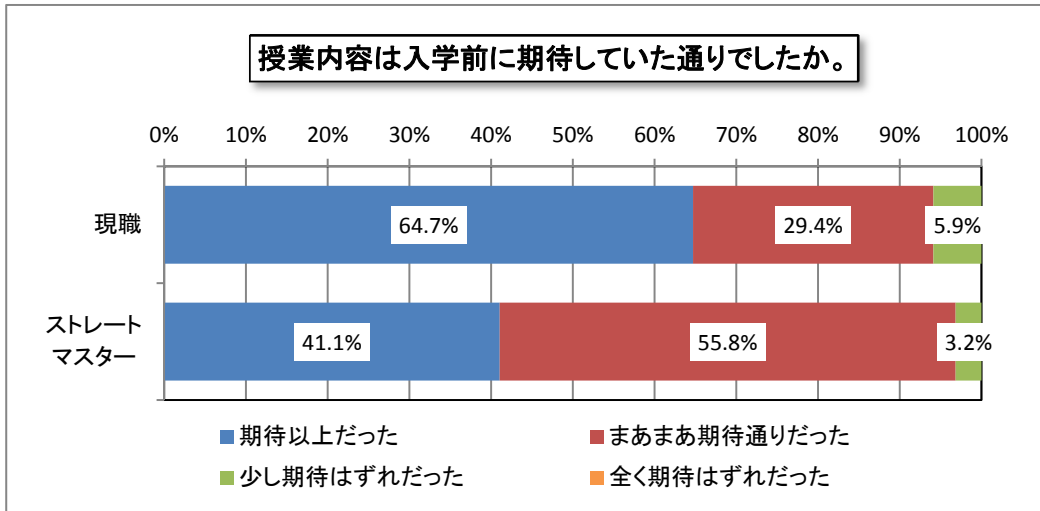
(2) あなたの回生はどれですか。



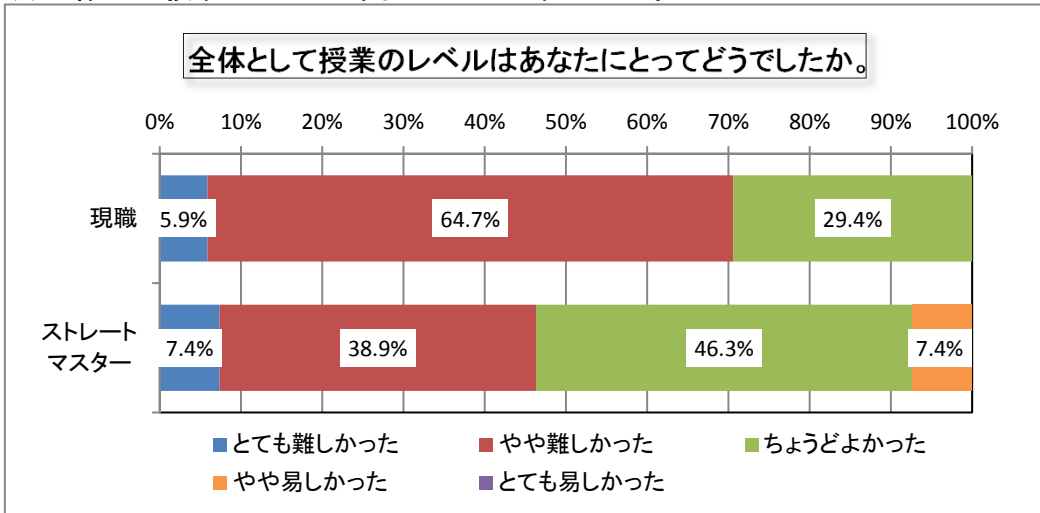
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



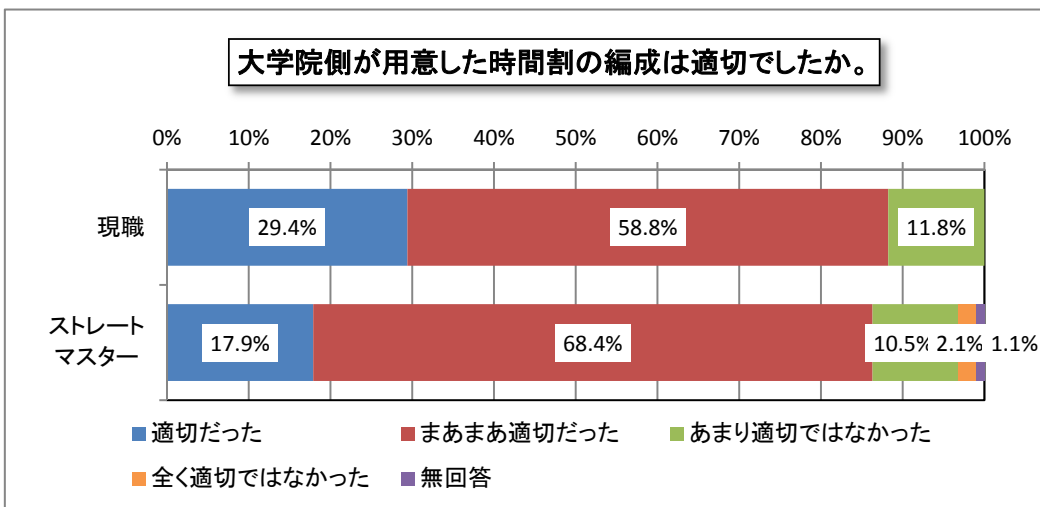
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



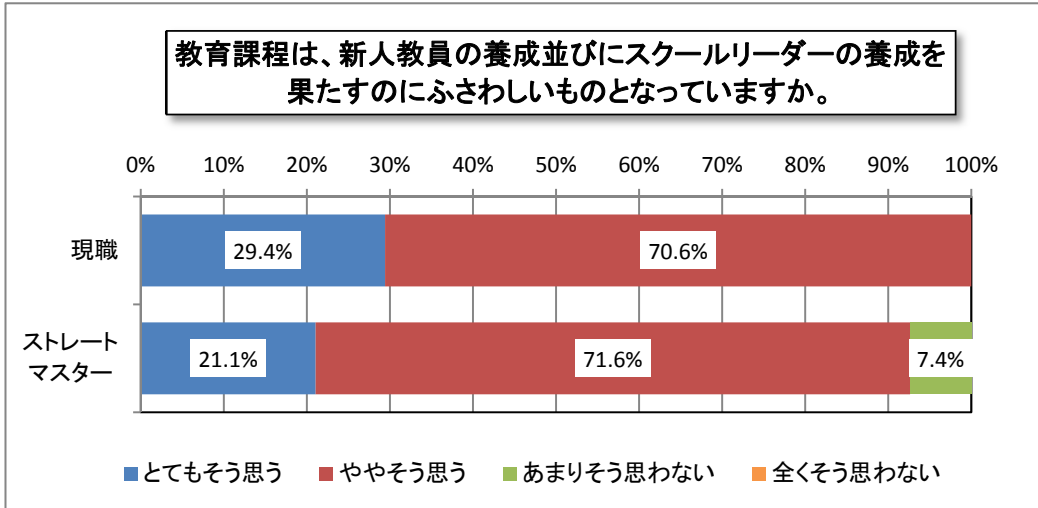
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



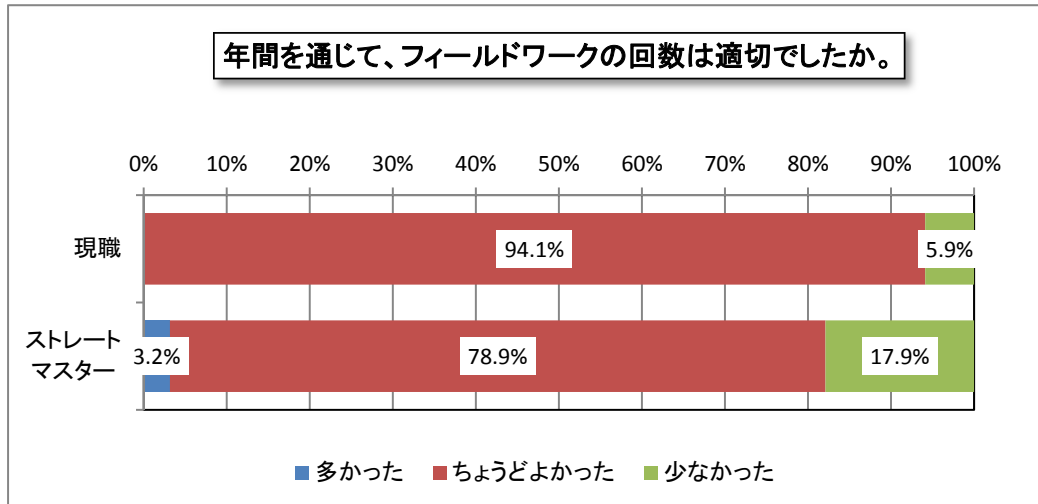
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



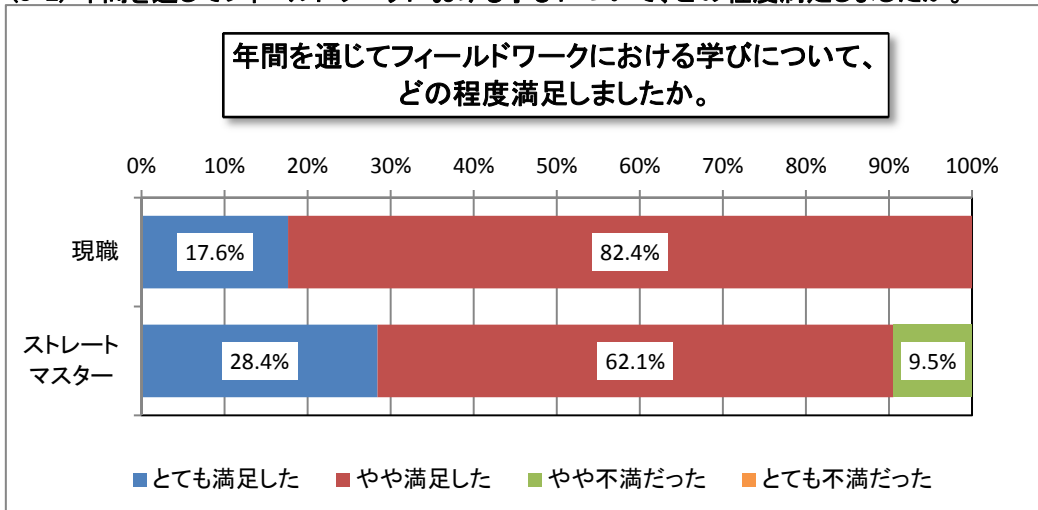
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



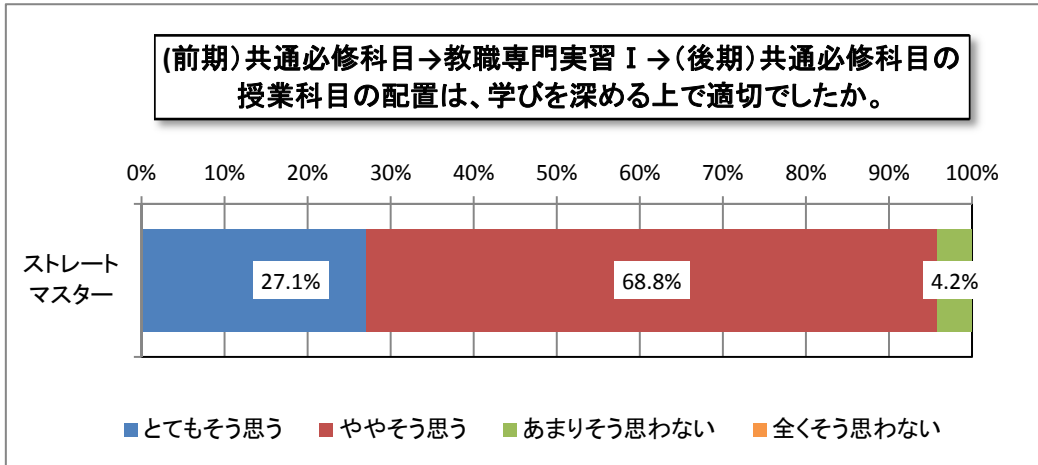
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



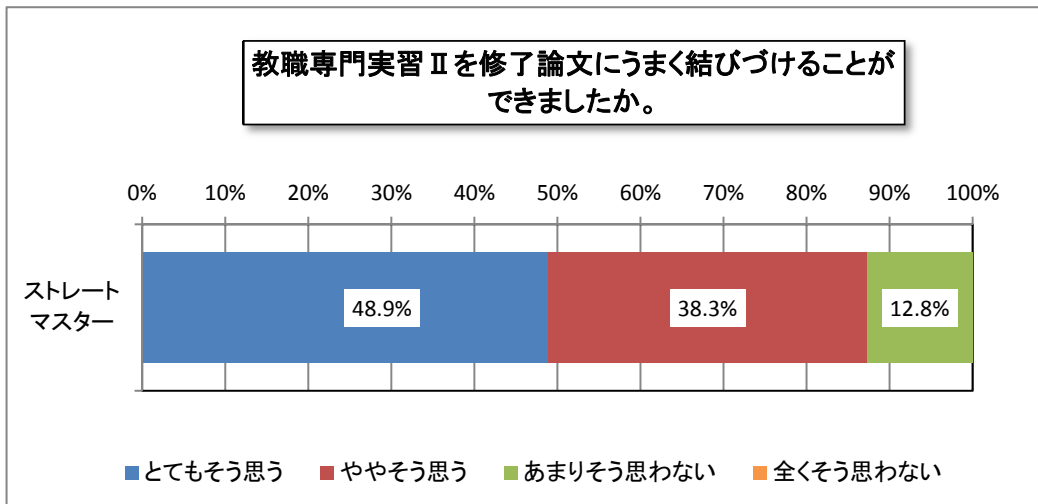
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



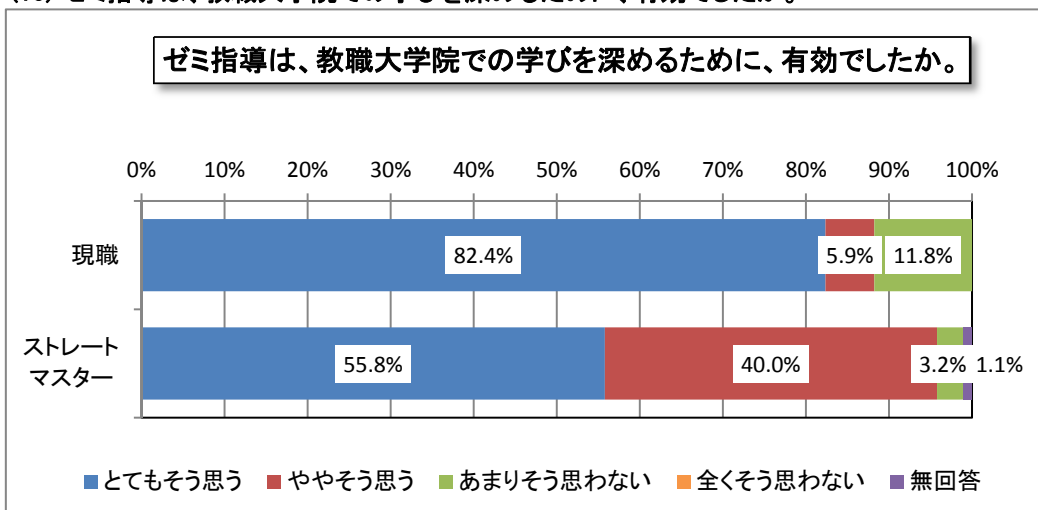
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



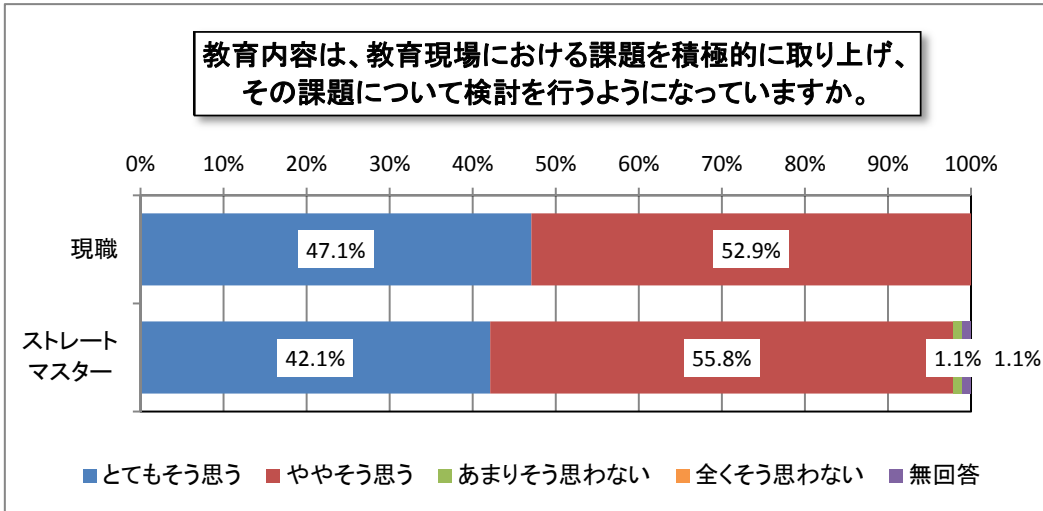
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びづけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



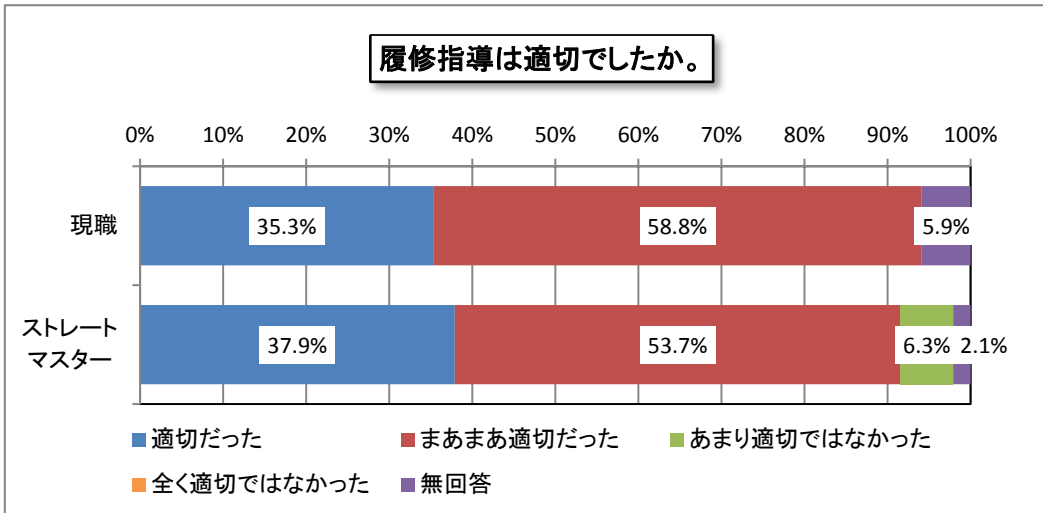
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



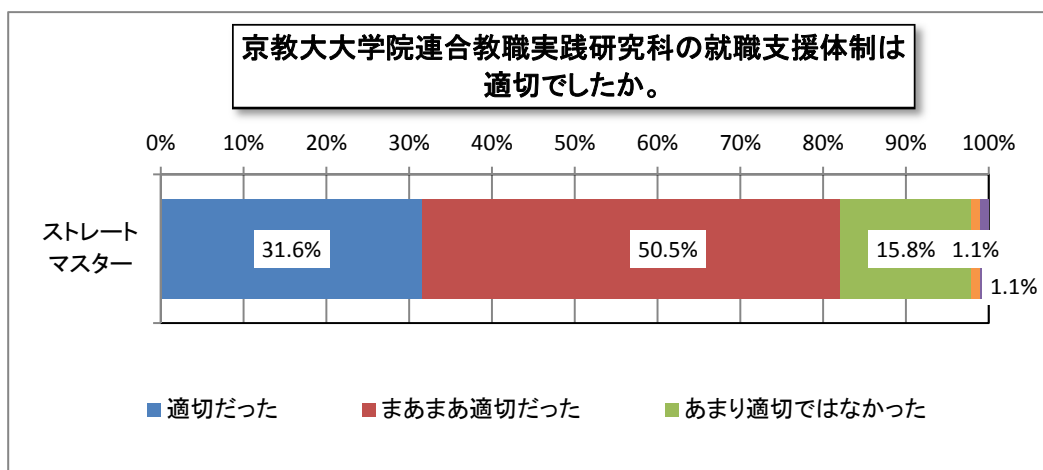
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



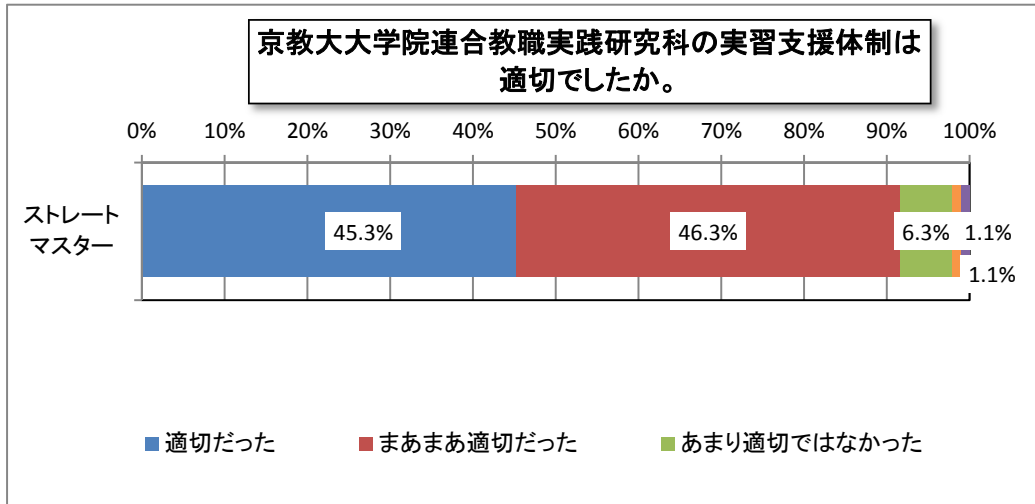
(12) 履修指導は適切でしたか。



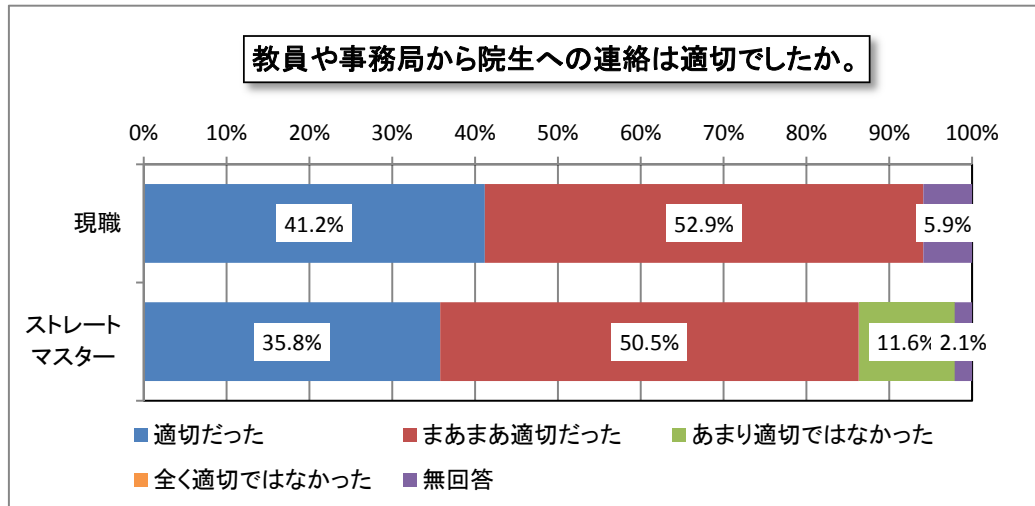
(13) 京大大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



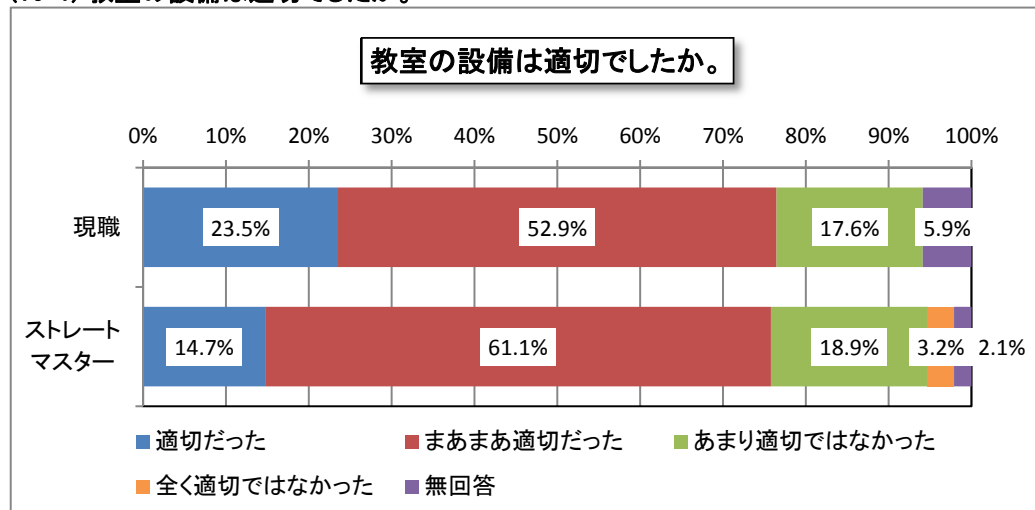
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



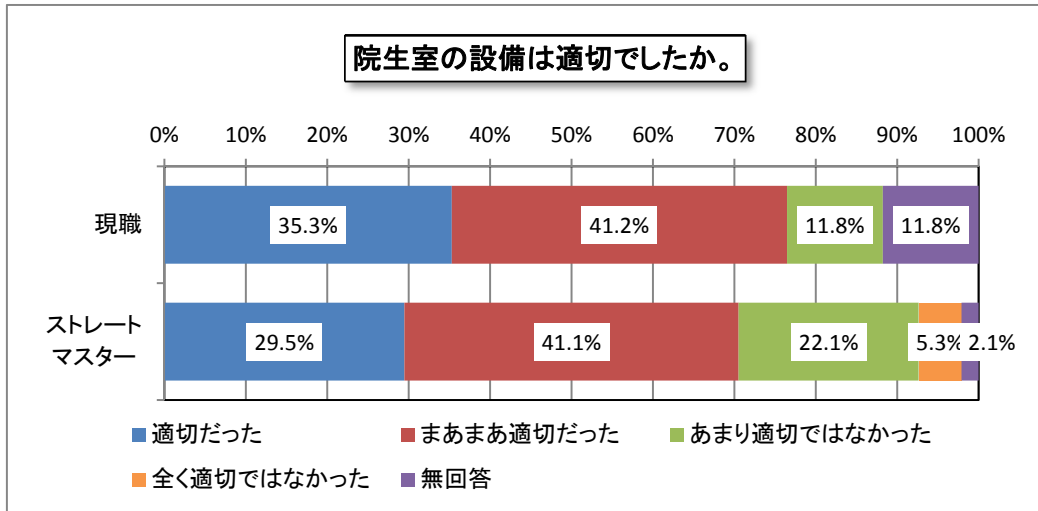
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



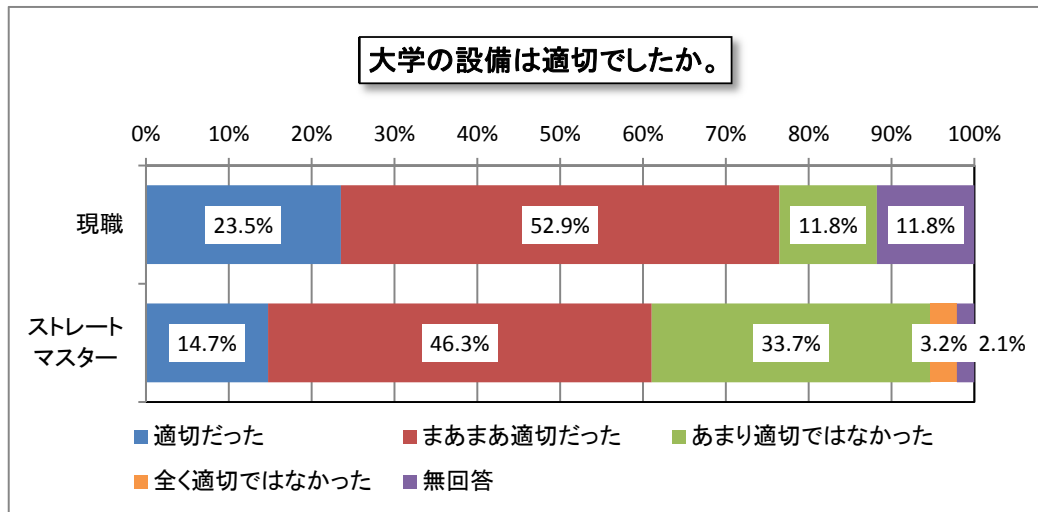
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



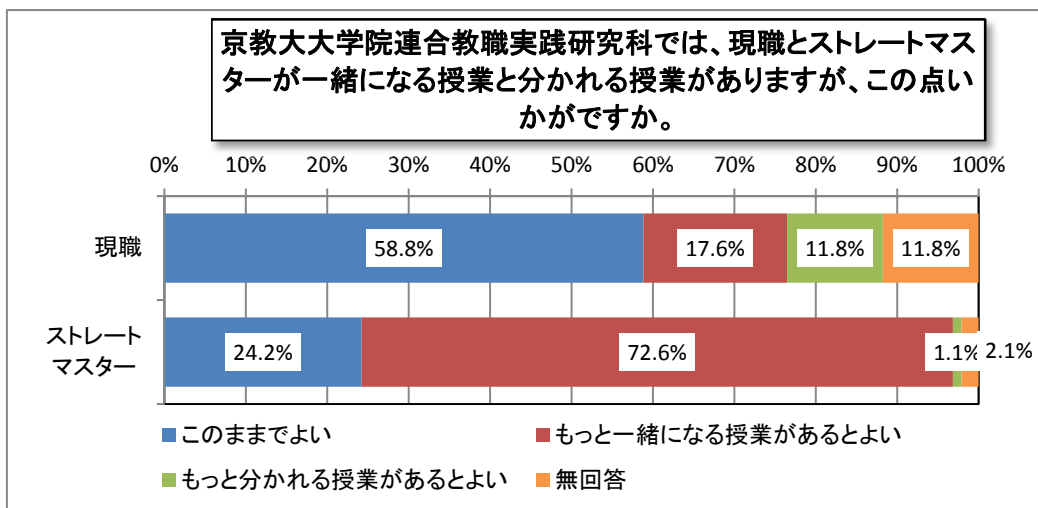
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



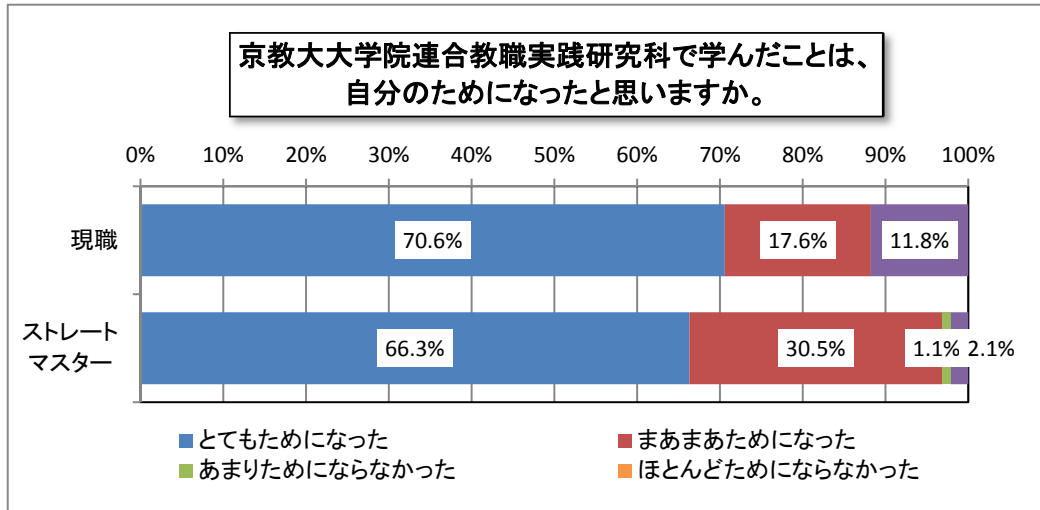
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



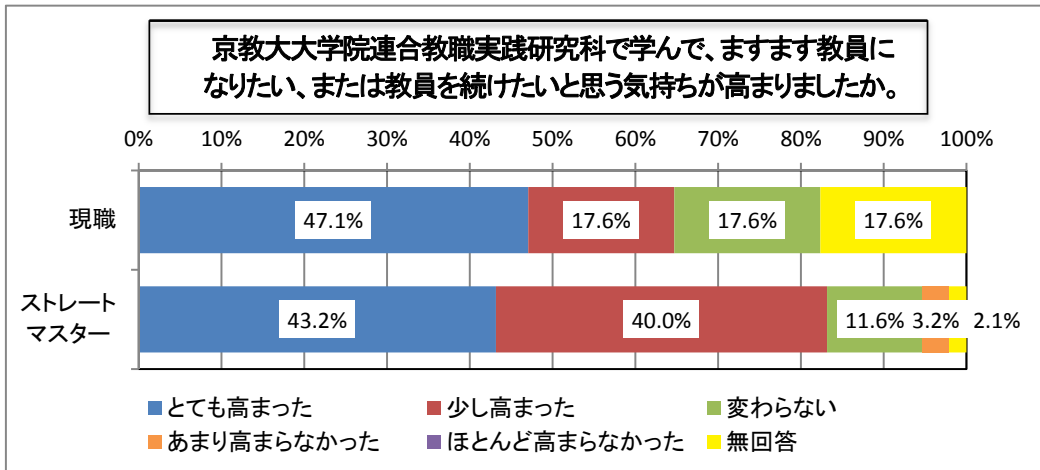
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



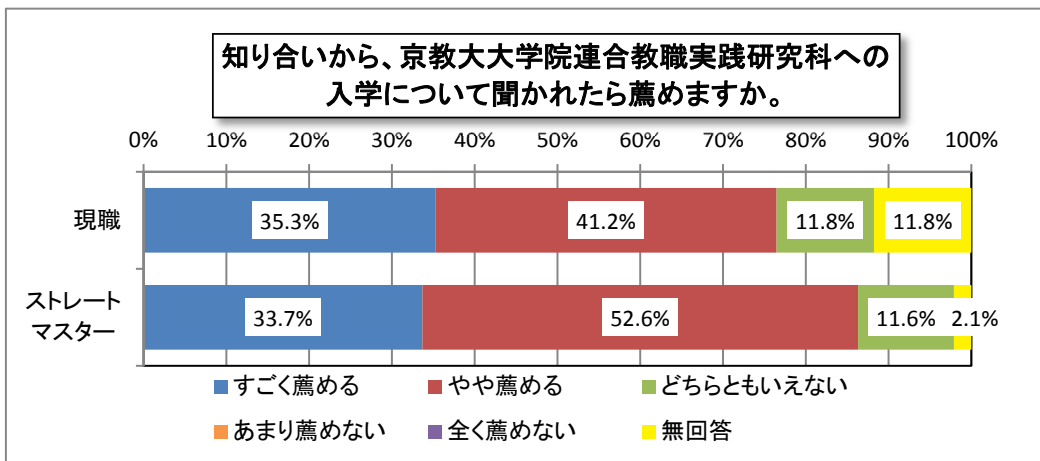
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

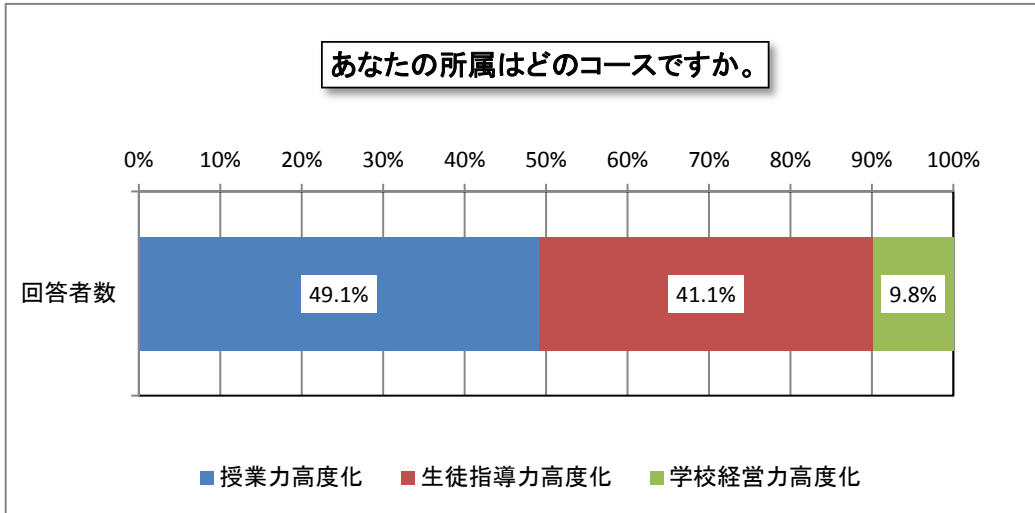


(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

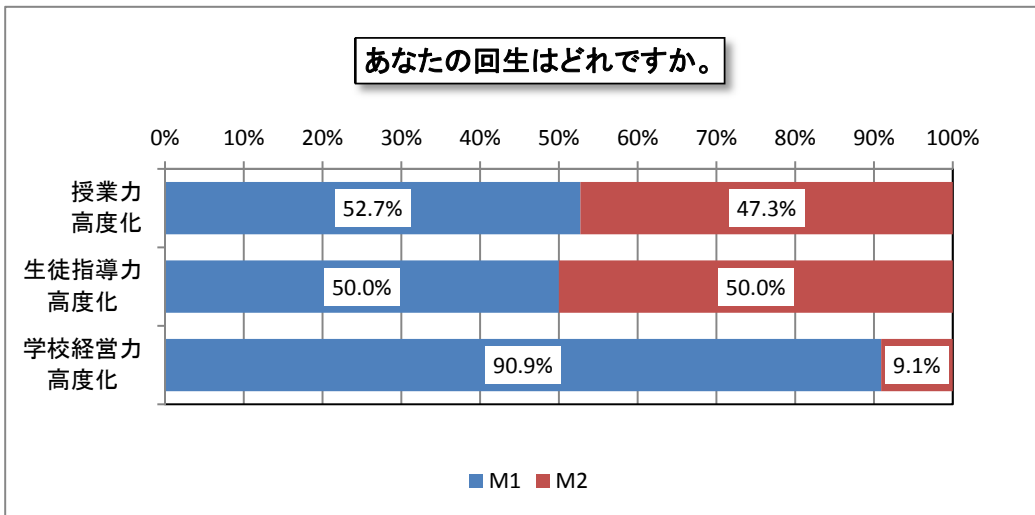


平成27年度研究科アンケート(コース別)

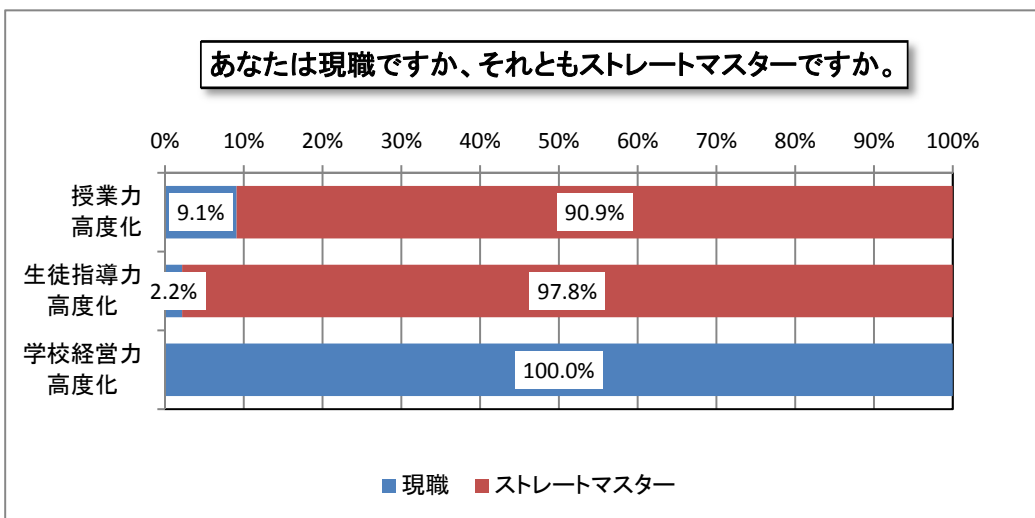
(1) あなたの所属はどのコースですか。



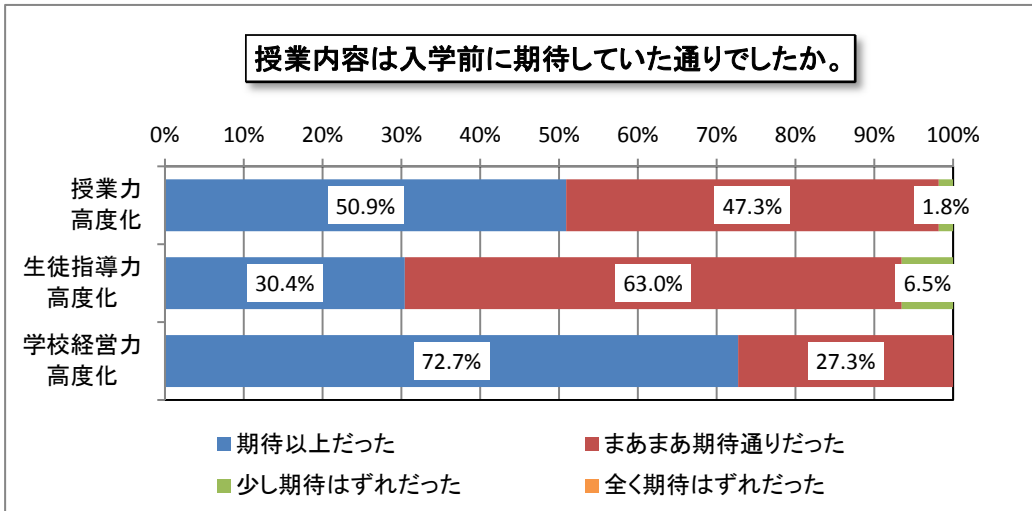
(2) あなたの回生はどれですか。



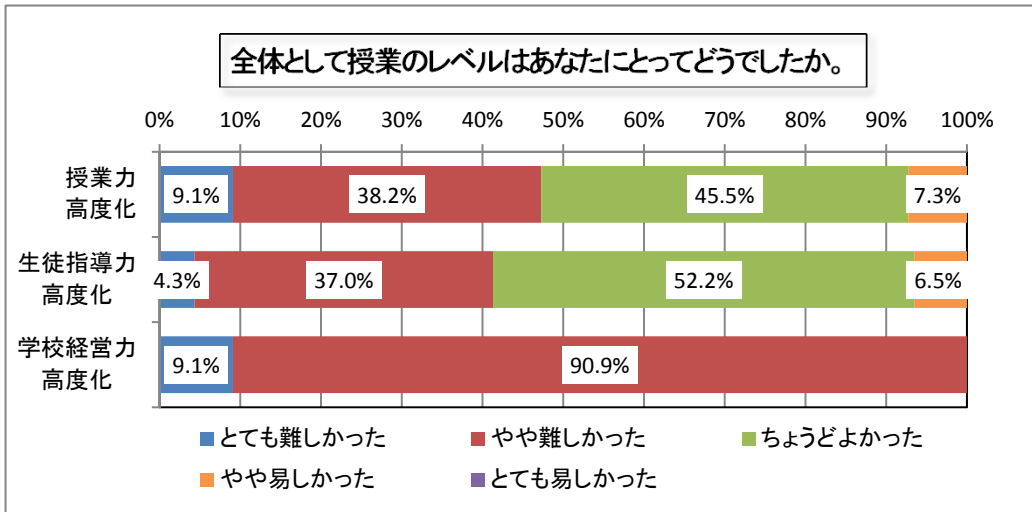
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



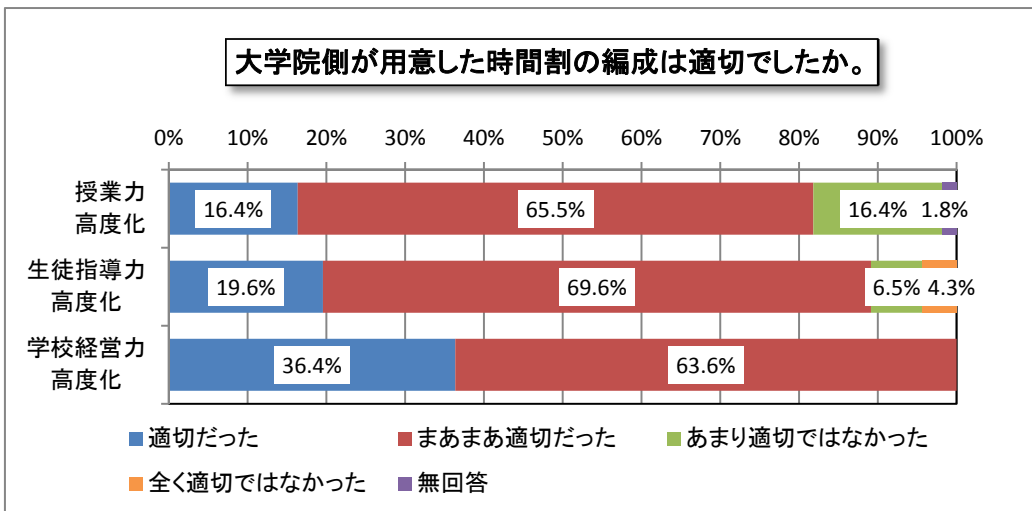
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



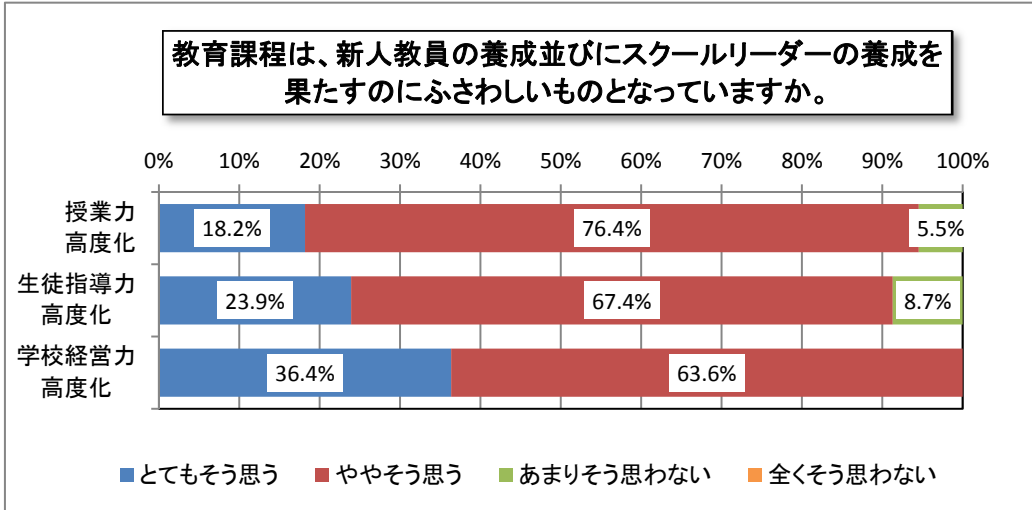
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



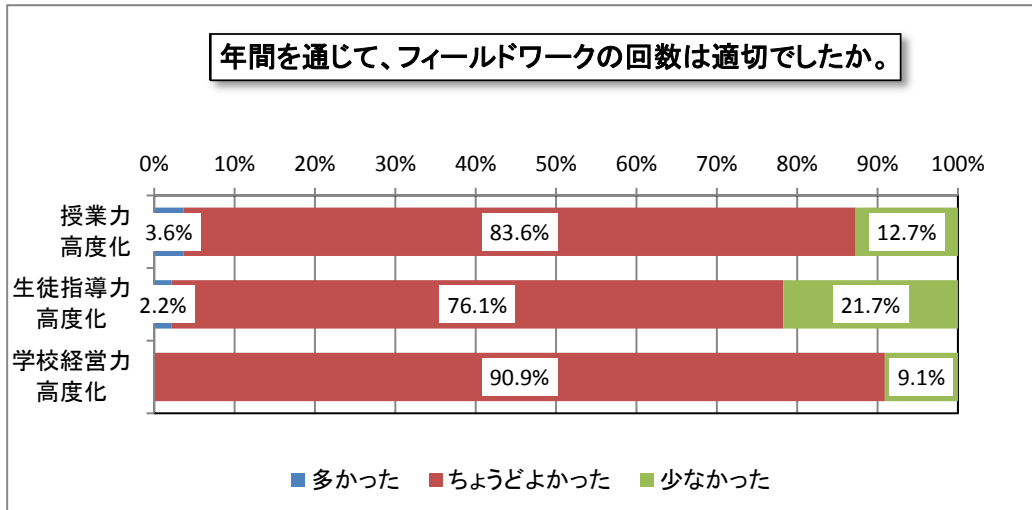
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



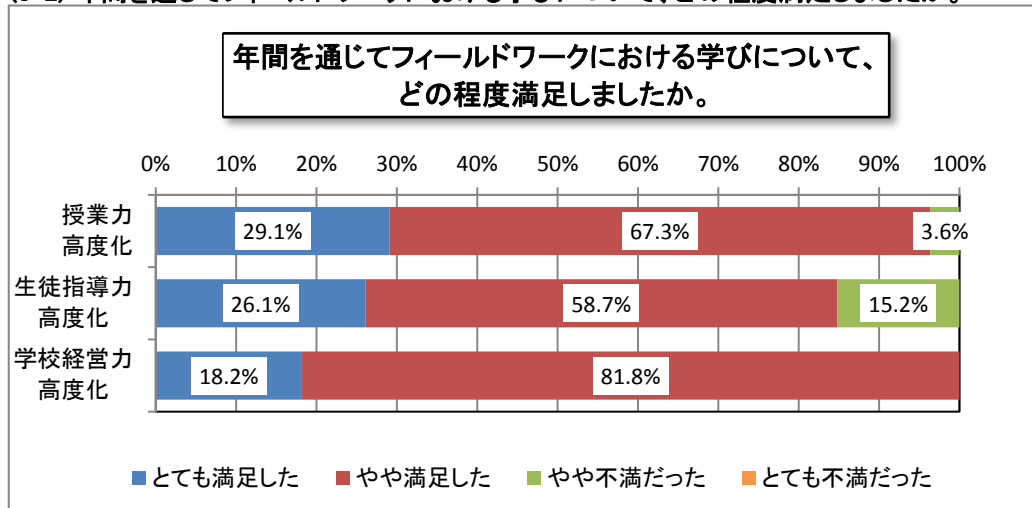
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



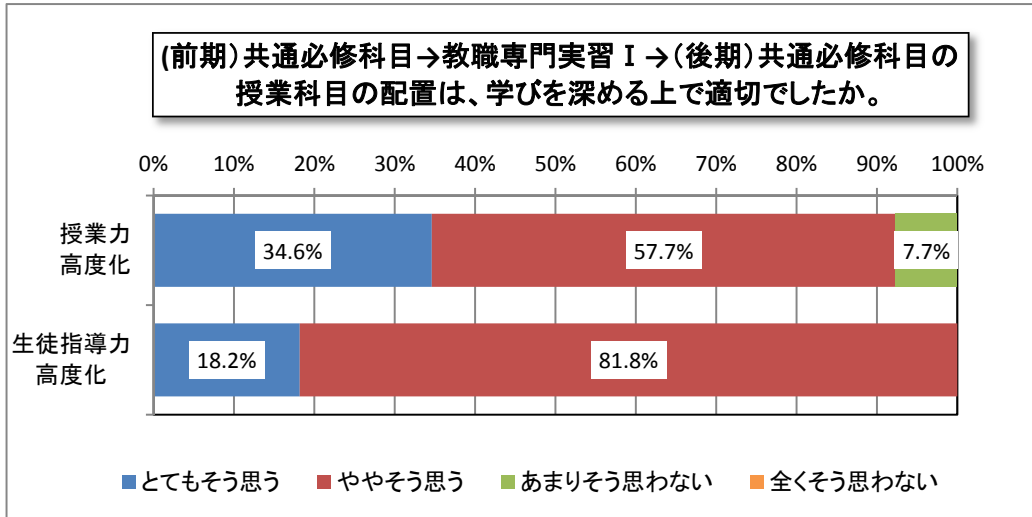
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



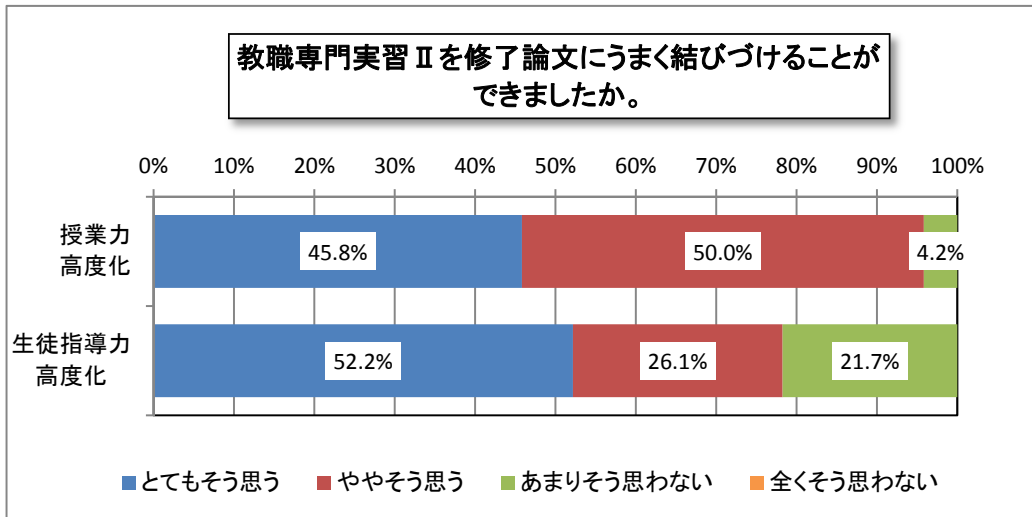
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



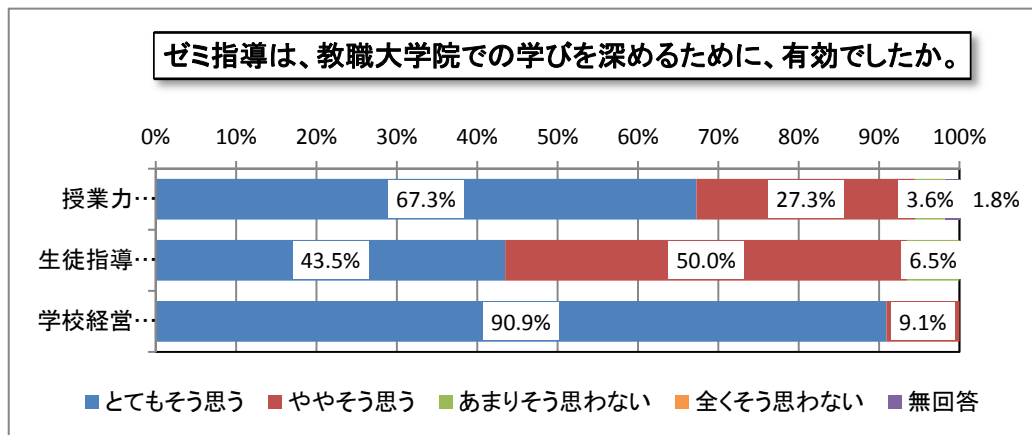
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



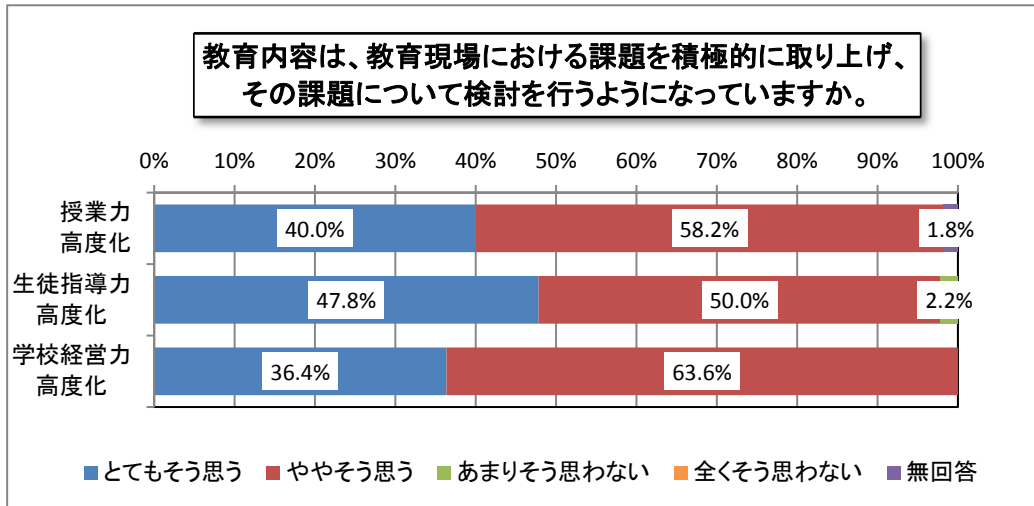
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



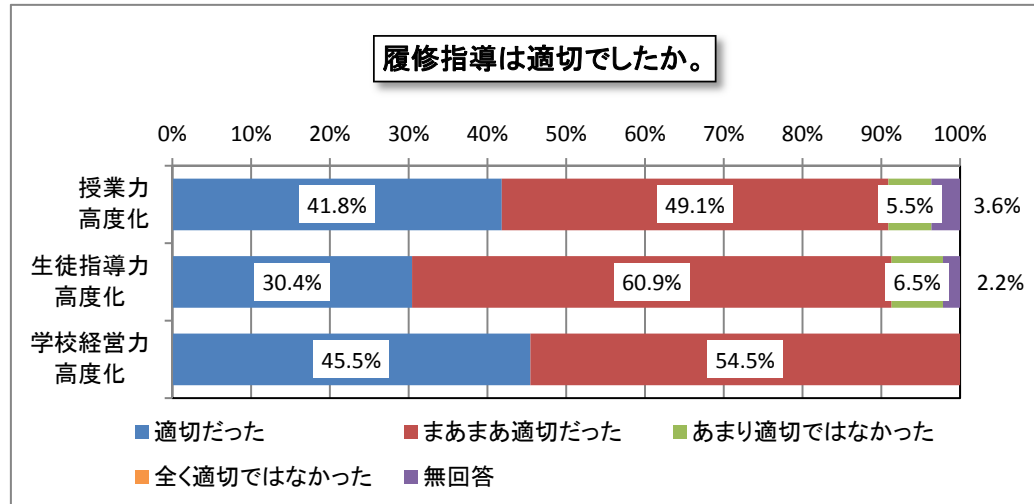
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



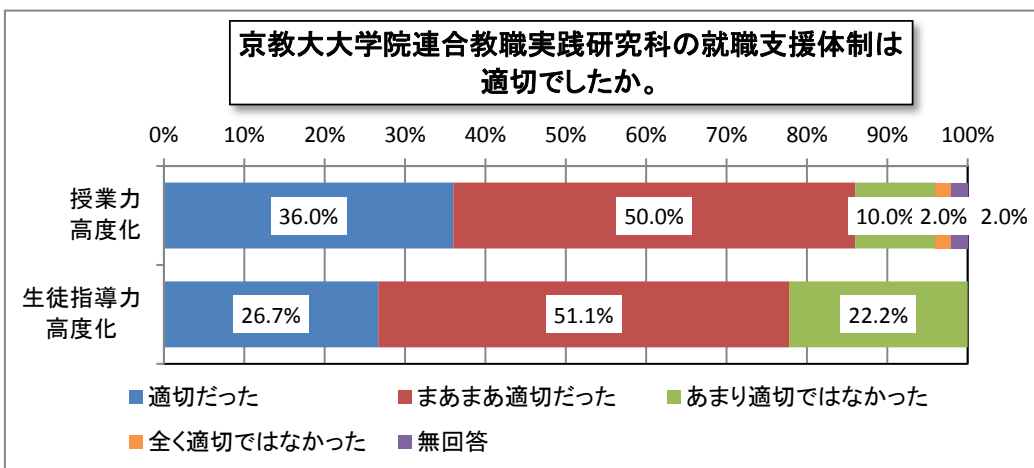
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



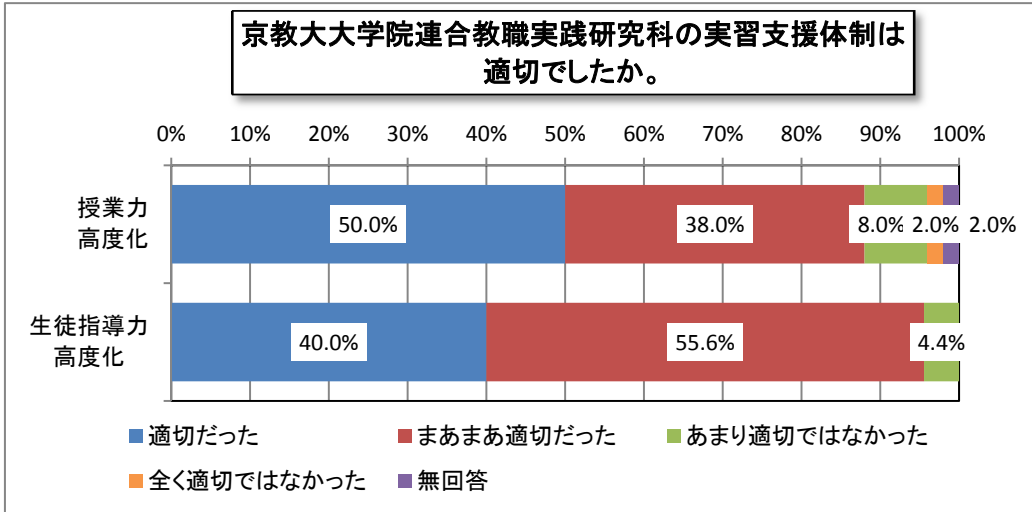
(12) 履修指導は適切でしたか。



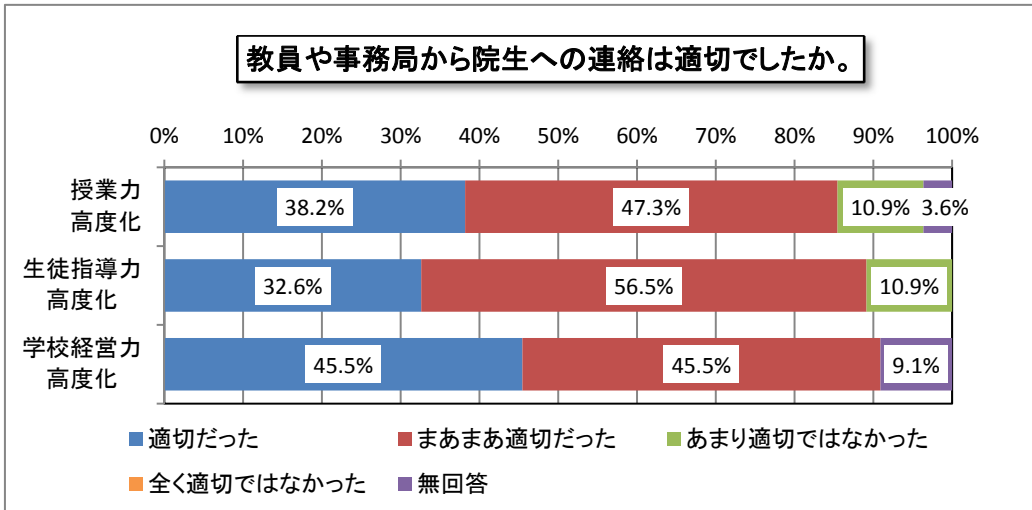
(13) 京大大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



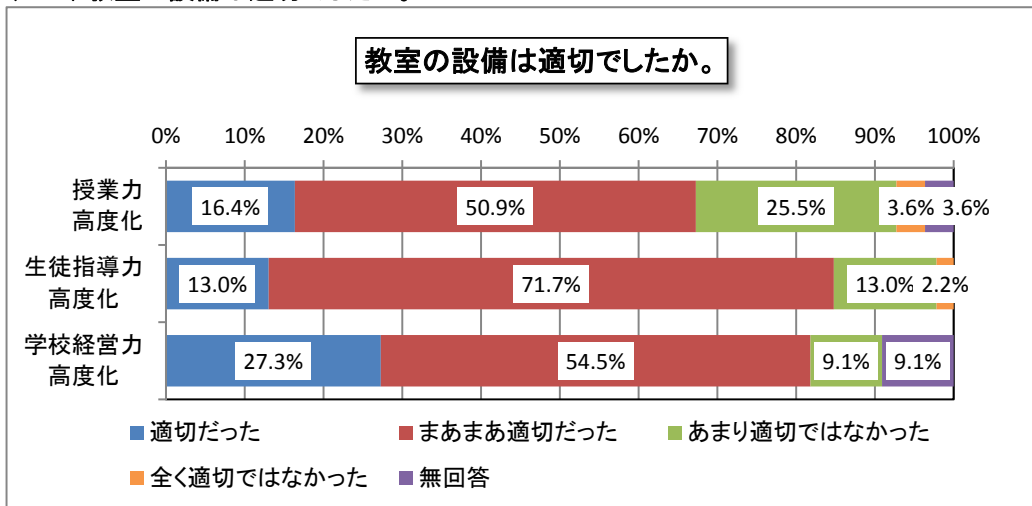
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



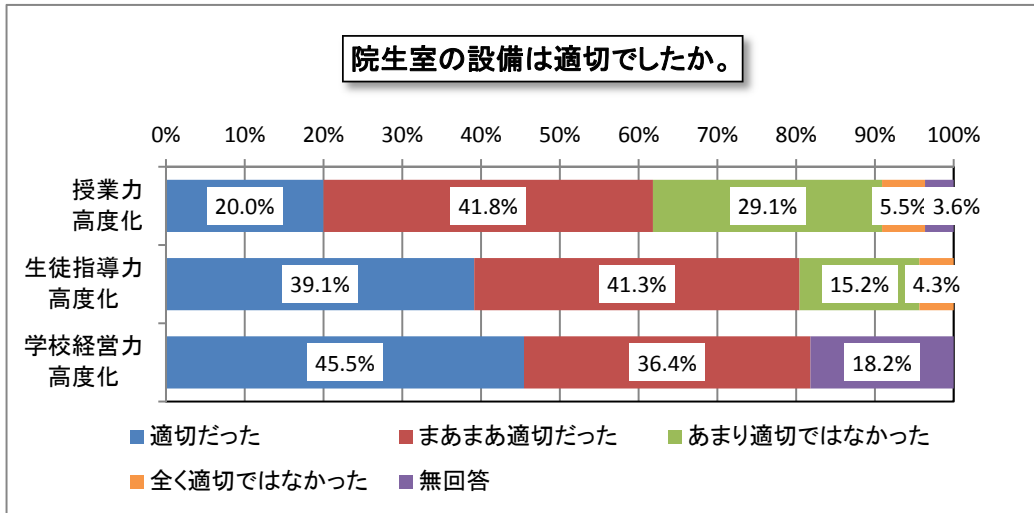
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



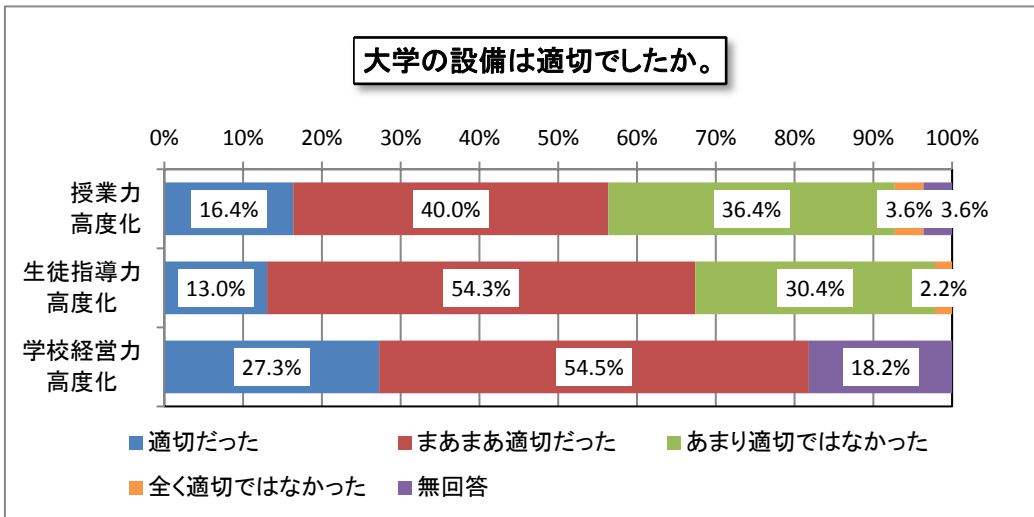
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



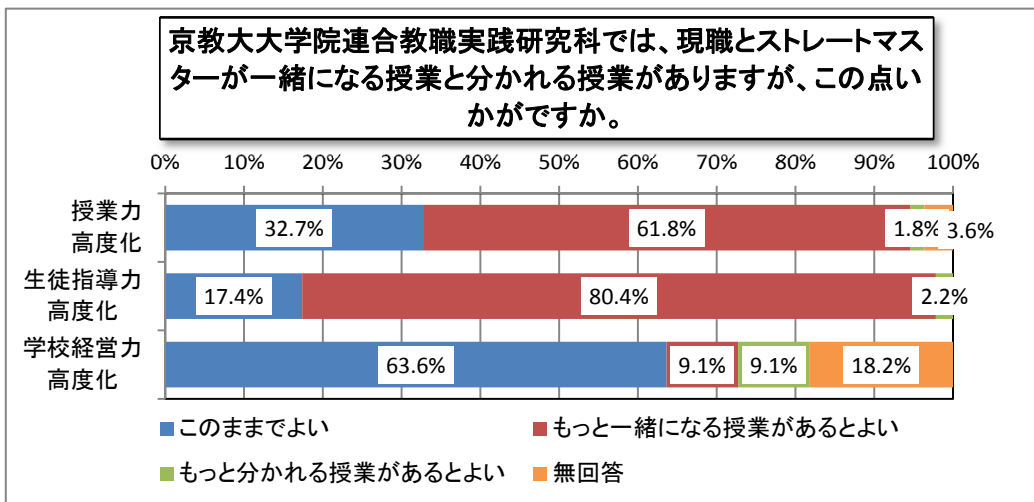
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



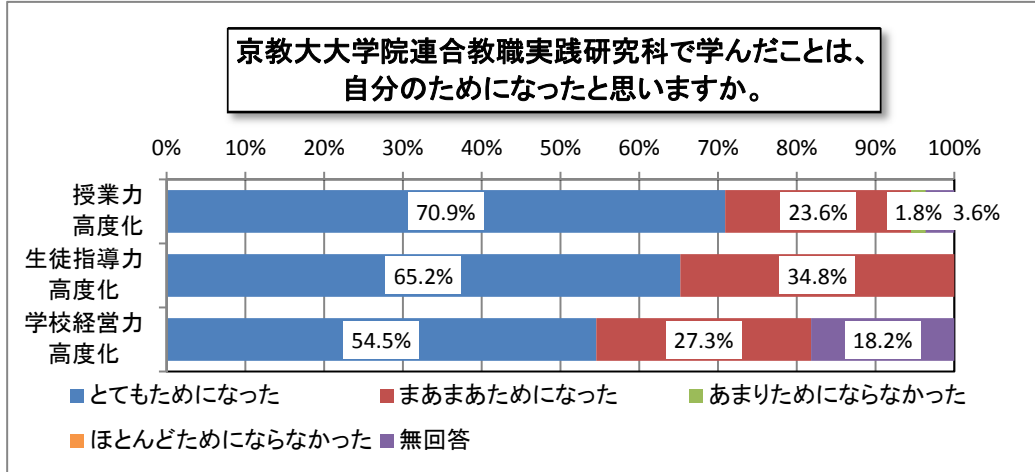
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



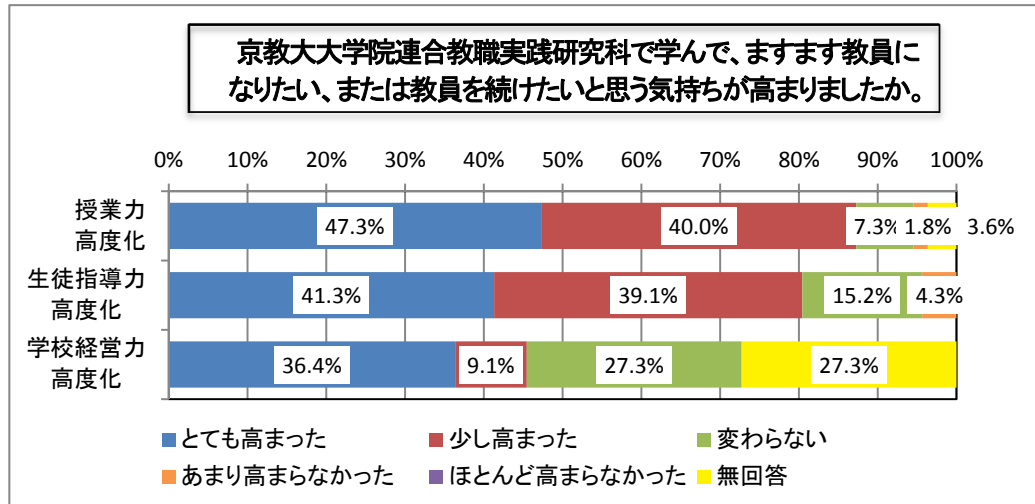
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

